

帯広・広尾自動車道(大樹～広尾)
第2回 計画段階評価資料

平成27年8月6日

国土交通省 北海道開発局

本日、ご議論いただきたい内容

- 第1回地域意見聴取の概要
- 地域意見を踏まえた政策目標
- 路線の整備方針(案)
- 地域意見聴取方法

1. 第1回地域意見聴取の概要

1-1) 第1回地域意見聴取の概要

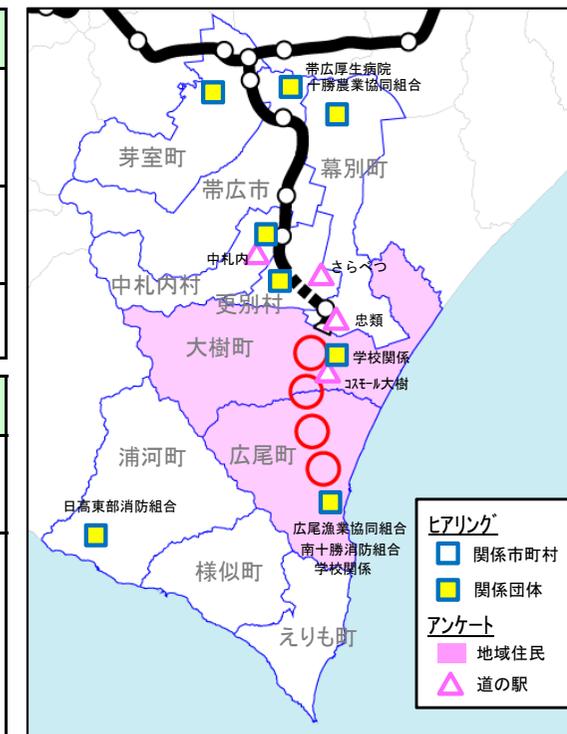
○第1回地域意見聴取は、住民・道路利用者へのアンケート調査、および沿線自治体・関係団体へのヒアリング調査を実施。

■意見聴取期間 平成26年9月25日(木)～10月17日(金)

■意見聴取の対象

■意見聴取対象地域

アンケート調査						
住民・道路利用者	配布	自治体広報誌と同時に全戸配布、郵送回収	大樹町	2,497世帯	合計 5,845世帯	
			広尾町	3,348世帯		
	留置き	道の駅へ調査票を常設、郵送または投函箱による回収	国道236号、336号沿線の道の駅(中札内、更別、忠類、大樹)		4箇所各200部	合計 800部
			Web	Web(HP)上で回答	一般の意見を聴取	



ヒアリング調査				
沿線自治体		帯広市、芽室町、中札内村、更別村、幕別町、大樹町、広尾町、浦河町、様似町、えりも町		合計 10団体
関係団体	産業団体	商工会	帯広商工会議所、芽室町商工会、中札内村商工会、更別村商工会、幕別町商工会、大樹町商工会、広尾町商工会、浦河町商工会	合計 15団体
		観光関連	北海道十勝観光連盟	
		輸送関連	北海道バス協会、十勝バス(株)、北海道トラック協会、十勝地区トラック協会	
		農水産業関連	北海道農業協同組合帯広支所、広尾漁業協同組合	
	消防・医療	消防組合	南十勝消防組合、日高東部消防組合	合計 3団体
		病院	帯広厚生病院(第三次医療施設)	
	教育機関	教育委員会	大樹教育委員会、広尾町教育委員会	合計 9団体
学校		大樹高等学校、広尾高等学校、大樹中学校		
保育園・保育所		大樹南保育園、大樹北保育園、広尾保育所、丸山保育所		

1-2) 地域意見聴取の手法と意見把握内容

- 住民・道路利用者に対するアンケート調査は、政策目標（案）を確認するため、日頃感じている地域の課題（案）、必要な道路機能について意見を聴取。
- 沿線自治体・関係団体に対するヒアリング調査は、地域および道路交通の現状と課題について説明し、必要な道路機能および設定した政策目標（案）について、それぞれの専門分野を中心に意見を聴取。

■ 地域及び道路の現状と課題

地域の課題（案）		原因	政策目標（案）
防災	○大規模災害時の避難及び支援物資輸送路が脆弱	○津波被害を直接受ける可能性がある国道1本に依存する緊急輸送道路	○災害時の信頼性の高いネットワークの構築
物流	○全国への食料供給を支える十勝港アクセスルートของ安全性・確実性の低下 ○主要物流ルート上で多発する交通事故	○貨物車事故の割合が高い ○一般車両と貨物車の輻輳による大型車事故の発生	○貨物車の安全な走行環境の確保による安全な物流ルートの確保
医療	○救急医療・高次医療サービスの享受が困難	○速度低下の多い区間の通過により、帯広市の高次医療施設まで長時間の移動が必要	○高次医療施設へのアクセス向上

1-4) 地域意見聴取の実施状況(ヒアリング調査)

○沿線自治体・関係団体に対して、現道課題や原因を説明した上で、大樹広尾間に求められる機能と、達成すべき政策目標（案）について、ヒアリング調査を実施。

■意見聴取内容

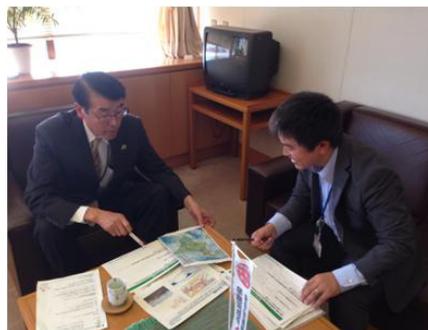
問1 現状の課題を踏まえ重要だと思われる大樹～広尾間の道路の機能について（理由）

問2 達成すべき政策目標（案）について（理由、考え方、課題の実態）

問3 その他の大樹～広尾間についての意見や要望について

■実施状況

調査対象			実施状況
沿線自治体			10
関係団体	産業団体	商工会	15
		観光団体	
		輸送関連団体	
		農水産業関連団体	
	消防・医療	消防組合	3
		病院	
	教育機関	教育委員会	9
		学校	
		保育園・保育所	
	合計		



(浦河町)



(北海道トラック協会)



(南十勝消防組合)



(広尾保育所)

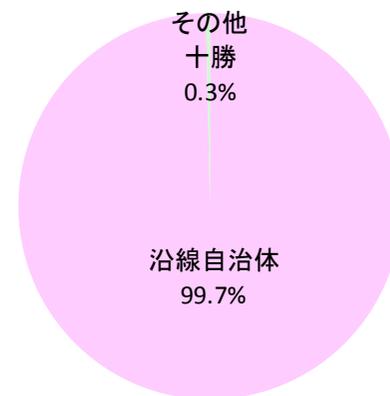
1-5) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(回収状況・居住地)

○全回収数は1,616人で、配布形式1,527人、留置き41人、Web48人が回答。
 ○回答者の居住地は、沿線自治体(大樹町、広尾町)95%、その他の十勝管内市町村4%、十勝以外の道内・道外が1%。

▼調査票回収状況

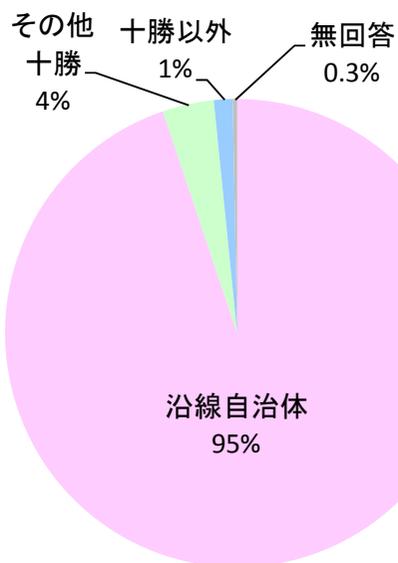
調査形式	配布数	回収数	回収率
配布(沿線自治体)	5,845	1,527	26.1%
留置き(道の駅)	-	41	-
Web	-	48	-
合計	-	1,616	-

▼居住地(配布)



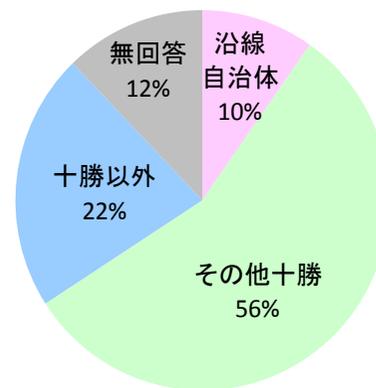
総回答者数 1,527人

▼回答者居住地



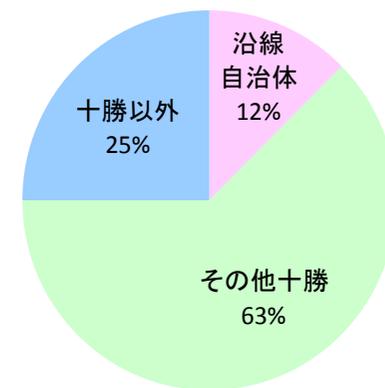
総回答者数 1,616人

▼居住地(留置き)



総回答者数 41人

▼居住地(Web)

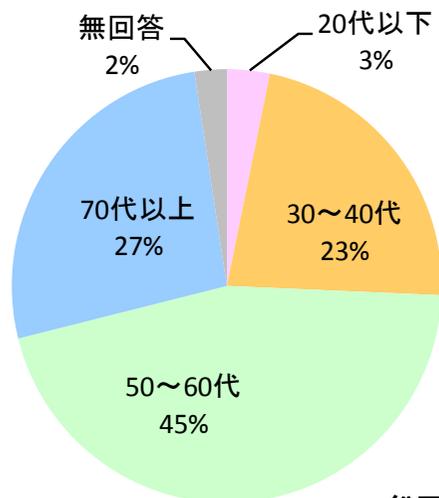


総回答者数 48人

1-6) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(回答者属性)

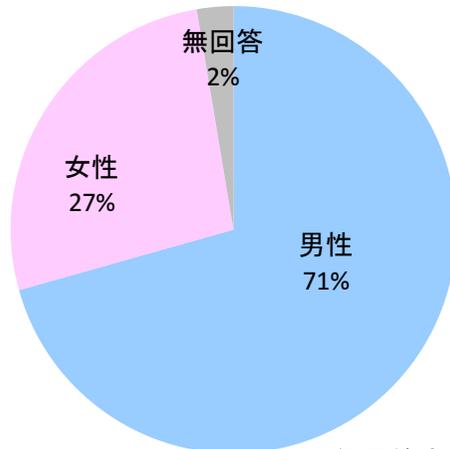
○年齢構成は50代以上が7割以上を占め、また性別についても男性が7割以上と高く、若年層や女性からの回答割合が低い傾向。
 ○職業については、有職者が約6割を占め、特に会社員の回答割合が高い傾向。

▼年齢



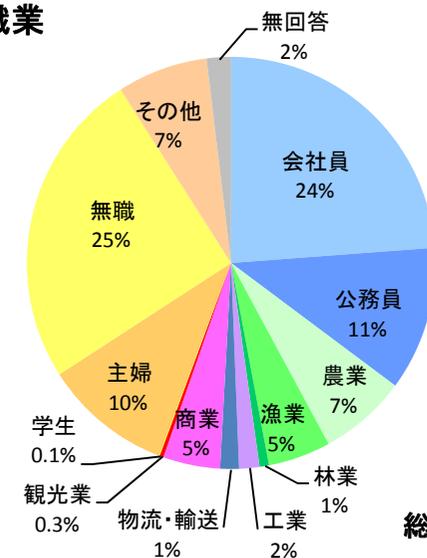
総回答者数 1,616人

▼性別



総回答者数 1,616人

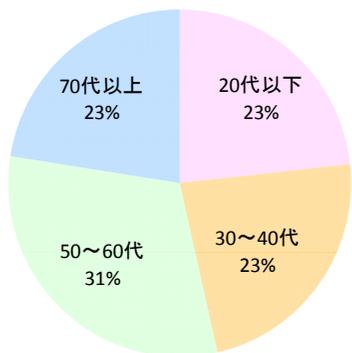
▼職業



総回答者数 1,616人

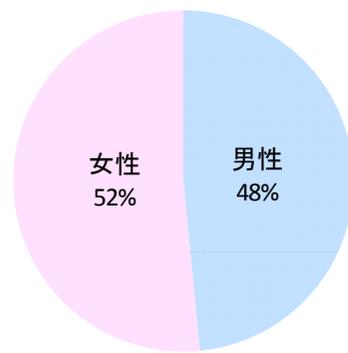
【参考】沿線自治体(大樹町・広尾町)の統計データ

・年齢



資料: H22年国勢調査

・性別



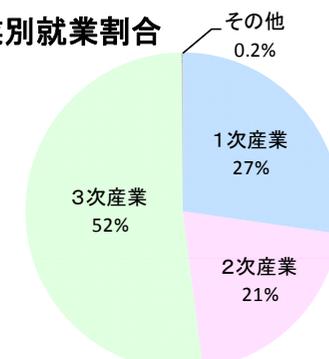
資料: H22年国勢調査

・就業率

配布数	就業者数	就業率
大樹町	3,187	60.7%
広尾町	4,042	58.8%
計	7,229	59.6%

資料: H22年国勢調査

・産業別就業割合



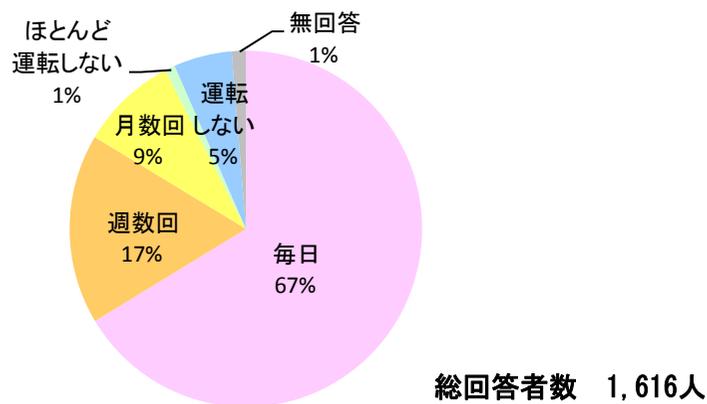
資料: H22年国勢調査

1-7) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(利用頻度等)

- 自動車運転頻度は、回答者の約7割が毎日運転と回答。
- 大樹～広尾間の利用頻度は、毎日～月数回の高頻度利用者が約8割を占めている。
- 大樹～広尾間の利用目的は、家事・買い物、通院、観光・レジャー、仕事の順で多くなっている。
- 回答者の高速道路の利用頻度は、毎日～月数回が7割以上を占めている。

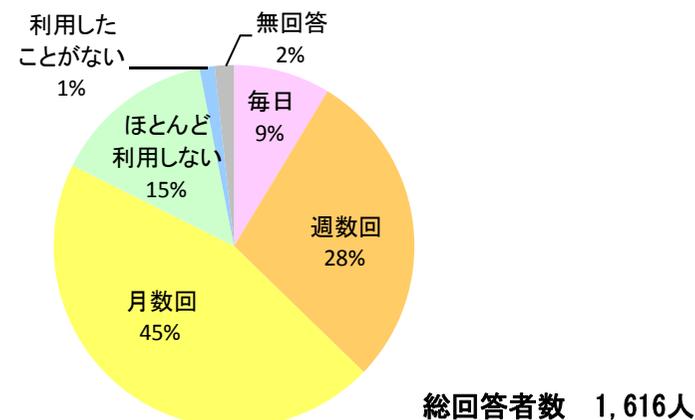
▼自動車を運転する頻度

質問. 自動車を運転する頻度を教えてください(単数回答)



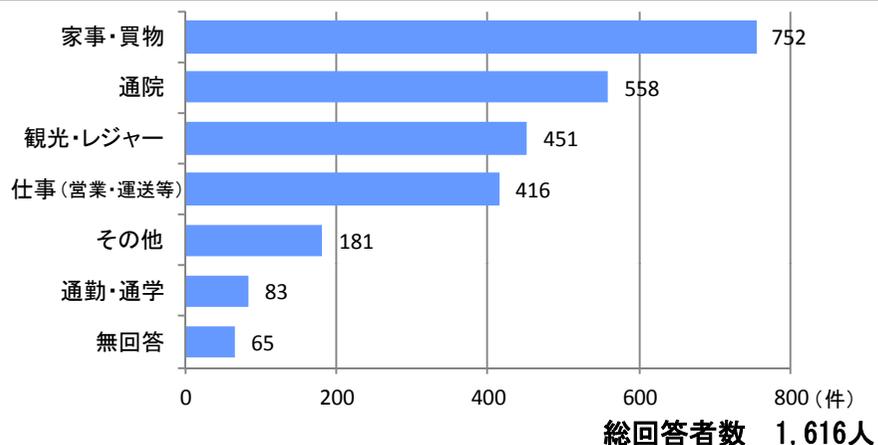
▼大樹～広尾間の利用頻度

質問. 大樹～広尾間の利用頻度を教えてください(単数回答)



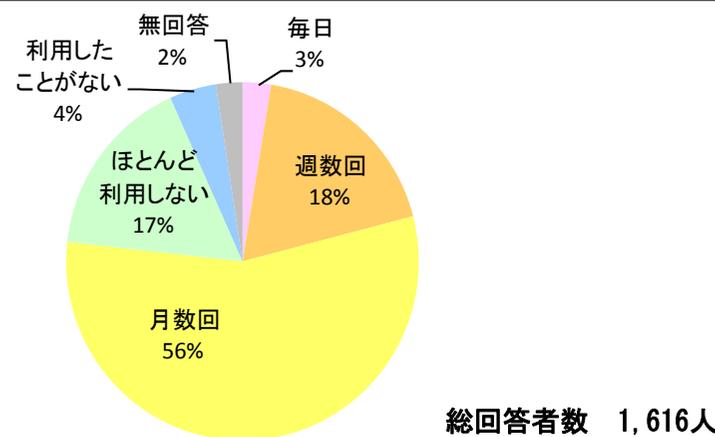
▼大樹～広尾間の利用目的

質問. 大樹～広尾間の主な利用目的を教えてください(複数回答)



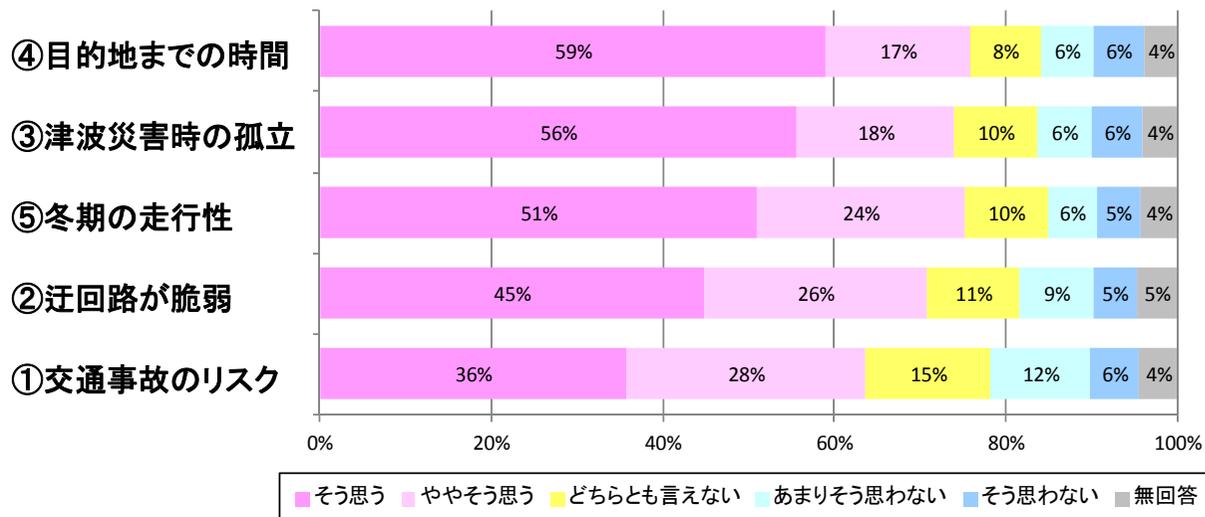
▼高速道路の利用頻度

質問. 高速道路の利用頻度を教えてください(単数回答)



○大樹～広尾間の現道の交通課題については、それぞれの課題に対し約6～7割が課題として感じている。
 ○特に、「目的地までの時間」や「津波災害時の孤立」を課題として感じている意見が多い。

▼大樹～広尾間の現道の交通課題

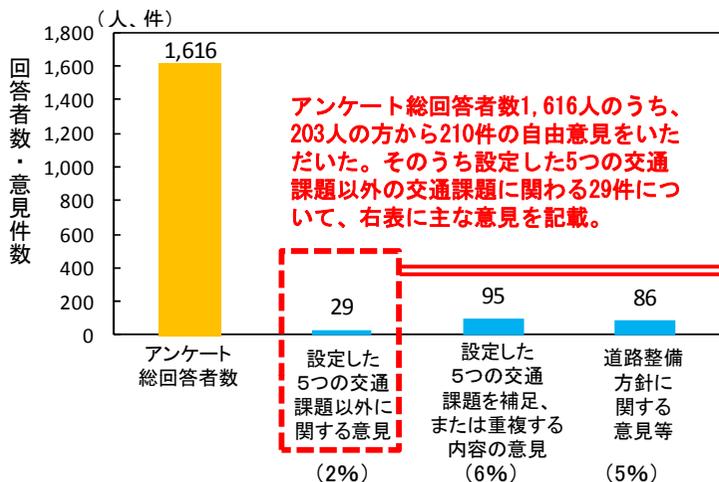


質問1-1. 大樹～広尾間の国道において、以下に示す交通課題に対し、どのようにお感じですか？
 以下に示す①～⑤について、「そう思う」～「そう思わない」の5段階で評価して下さい。(単数回答)

- ① 農水産品等の物流貨物車が多く、無理な追い越しがあるなど交通事故のリスクが高い
- ② 通行止め時の迂回路が脆弱
- ③ 津波災害時に広尾町が孤立する恐れがある
- ④ 高次医療施設などの目的地まで時間がかかる
- ⑤ 冬期は地吹雪や路面凍結が頻繁に発生

総回答者数 1,616人

▼その他の現道の交通課題



質問1-2. 5つの交通課題以外で、あなたが問題だと思うことがあれば、ご自由にお書きください。(自由記述)

分類	主な意見
道路構造【4件】	・大樹町役場の坂が急に狭くなり危険。
マナー・ルール【6件】	・追い越し禁止区間等で異常に遅い車が多く事故誘引のもと。
維持管理【16件】	・昔と比べ草刈りや除雪などの質の低下。 ・特に橋梁等の経年劣化が目立つ。
産業【3件】	・観光面で交通が不便という評価で敬遠される恐れがある。

※掲載件数は意見件数に応じた。掲載件数は意見件数の10% (1件以下切り上げ)

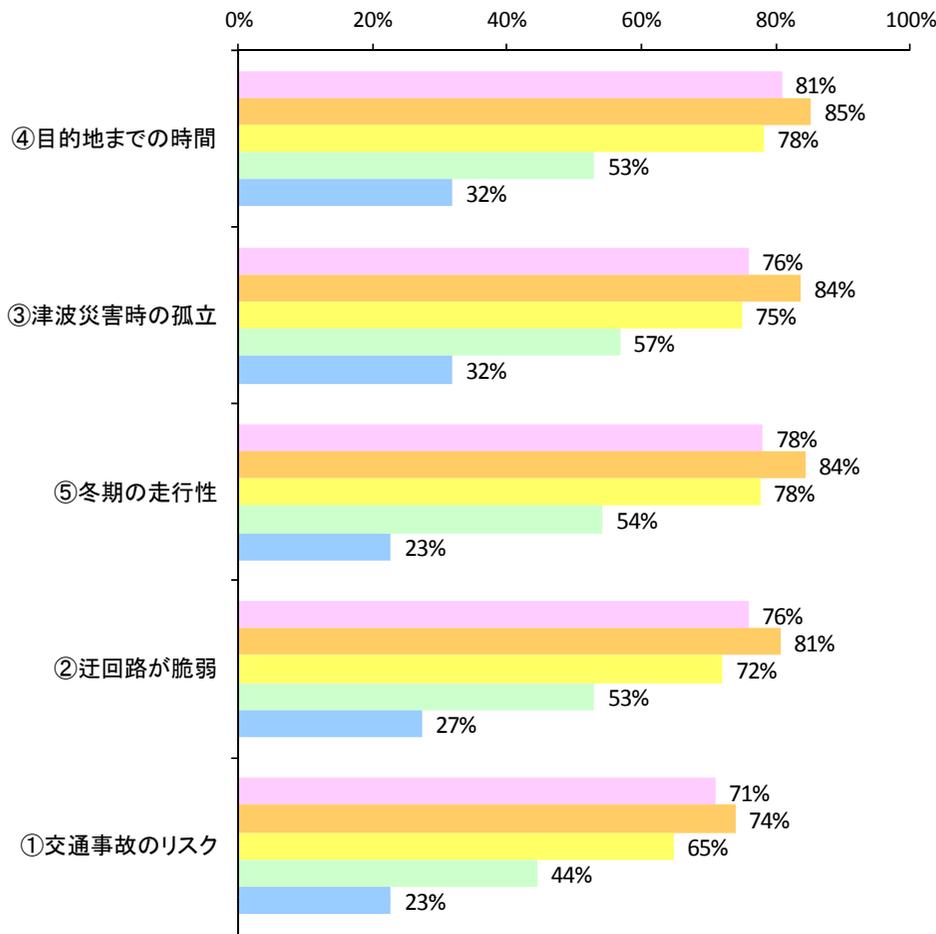
自由意見回答者数 203人、総意見数 210件

※1人の回答者が複数の分類に関する記載をしている場合もあるため、各分類の回答者は重複している。

○大樹～広尾間の利用頻度別では、利用頻度が高い回答者ほど課題と感じる意見の割合が高い傾向。
 ○大樹～広尾間の高頻度利用者(毎日・週数回・月数回)のうち居住地別にみると、トリップ長がより長いと思われる利用者の方が、課題ととらえる意見の割合が高い傾向。

▼大樹～広尾間利用頻度別の賛同意見割合

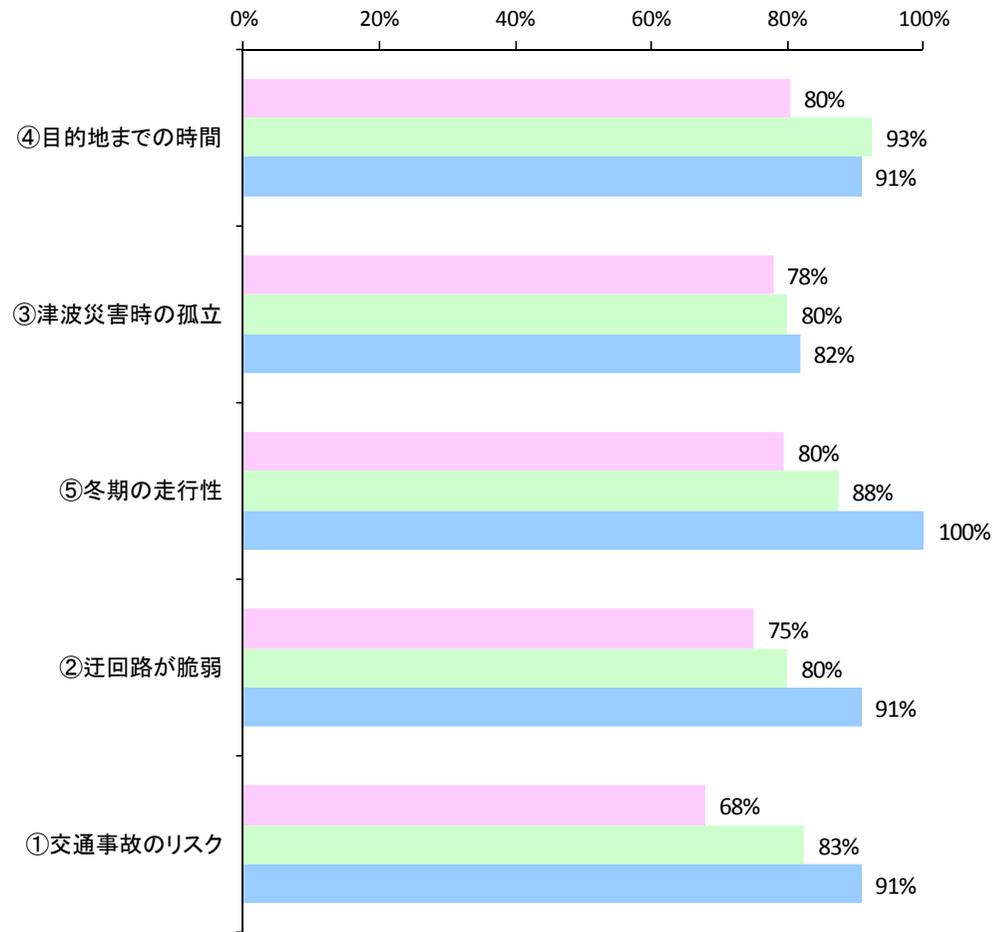
(「そう思う」または「ややそう思う」と回答した回答者の割合)



回答者数 毎日 141人 週数回 460人 月数回 729人 ほとんど利用しない 236人 利用したことがない 22人

▼大樹～広尾間高頻度(毎日・週数回・月数回)利用者における居住地別の賛同意見割合

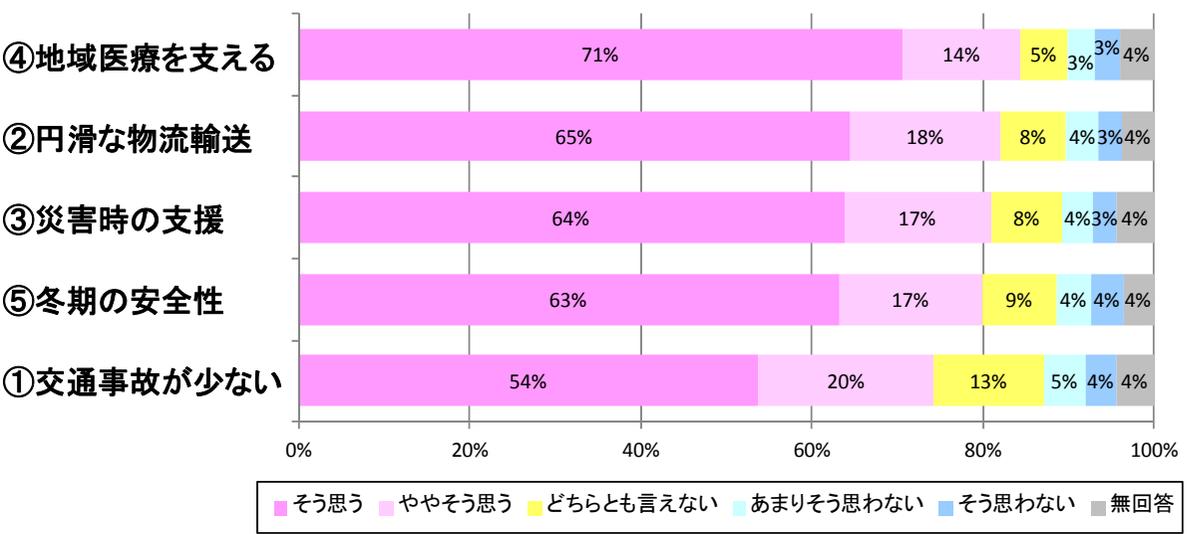
(「そう思う」または「ややそう思う」と回答した回答者の割合)



高頻度利用回答者数 沿線自治体(大樹町・広尾町) 1,276人 その他十勝 40人 十勝以外 11人

○道路に求められる機能については、それぞれの機能に対し約7~8割が必要と感じるという傾向。
 ○特に、「地域医療の支援」、「円滑な物流輸送」について必要と感じる意見が多い。

▼大樹～広尾間の道路に求められる機能

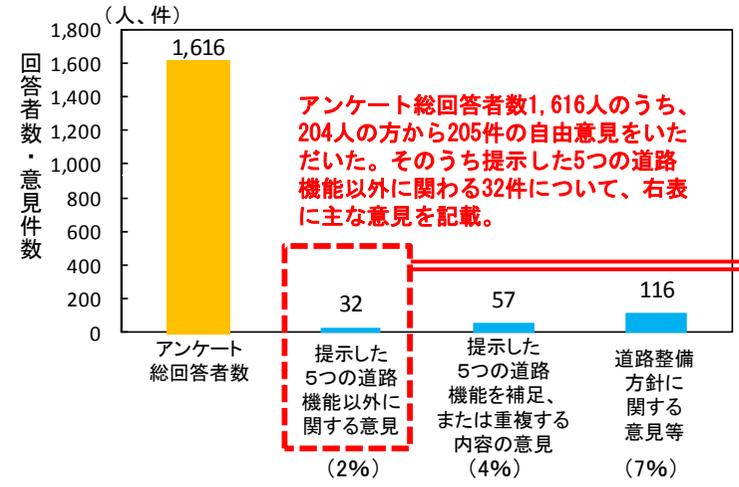


質問2-1. 質問1にあげられた課題を踏まえ、大樹～広尾間の道路に求められる機能について、どのようにお感じですか？以下に示す①～⑤について、「そう思う」～「そう思わない」の5段階で評価して下さい。(単数回答)

- ① 交通事故が少ない安全な道路
- ② 農水産品等の円滑な物流輸送を支える道路
- ③ 災害時に支援ルートとして機能する道路
- ④ 救急搬送など地域医療を支える道路
- ⑤ 冬期でも安全に走行できる道路

総回答者数 1,616人

▼その他の道路に求められる機能



質問2-2. 5つの道路機能以外で、あなたが思う求められる機能があればご自由にお書き下さい。(自由記述)

分類	主な意見
時間短縮・走行性が良い道路【15件】	・時間短縮 ・大樹、広尾の2町だけではなく、道内の広域ネットワークの中で重要なルートとしての機能
産業を支援する道路【15件】	・観光客・レジャー、人の交流が図られる道路 ・雇用創出、観光目的としての道路

自由意見回答者数 204人、総意見数 205件

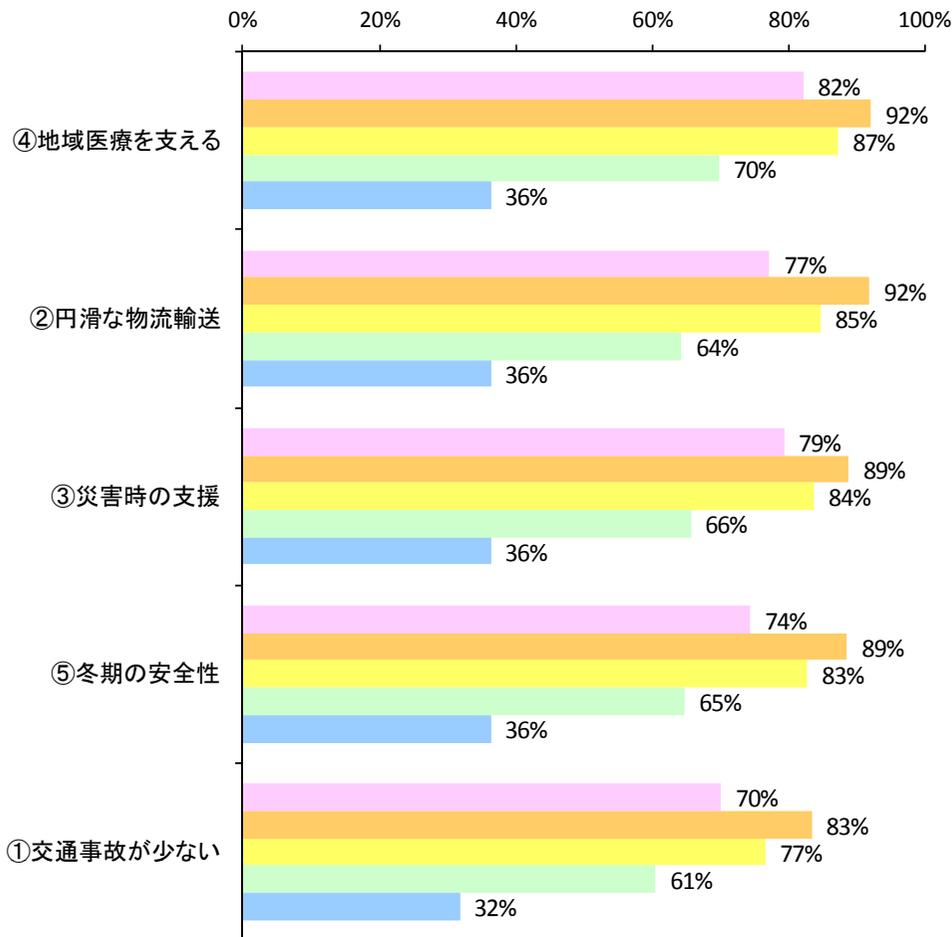
※1人の回答者が複数の分類に関する記載をしている場合もあるため、各分類の回答者は重複している。

※掲載件数は意見件数に応じた。掲載件数は意見件数の10% (1件以下切り上げ)

○利用頻度別では、利用頻度が高い回答者ほどそれぞれの機能を必要と感じる割合が高い傾向。
 ○大樹～広尾間の高頻度利用者(毎日・週数回・月数回)のうち、居住地別にみると、トリップ長がより長いと思われる利用者の方が、それぞれの機能を必要と感じる意見の割合が高い傾向。

▼大樹～広尾間利用頻度別の賛同意見割合

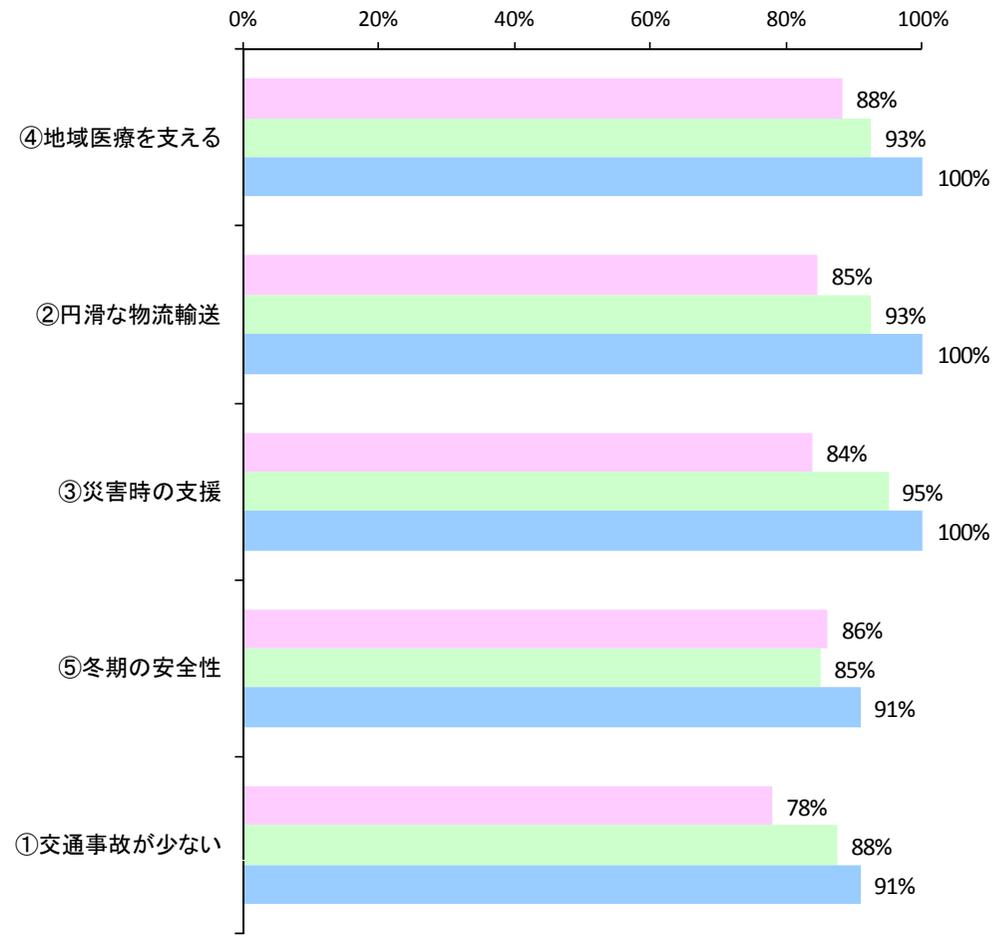
(「そう思う」または「ややそう思う」と回答した回答者の割合)



回答者数 毎日 141人 週数回 460人 月数回 729人 ほとんど利用しない 236人 利用したことがない 22人

▼大樹～広尾間高頻度(毎日・週数回・月数回)利用者における居住地別の賛同意見割合

(「そう思う」または「ややそう思う」と回答した回答者の割合)



高頻度利用回答者数 沿線自治体(大樹町・広尾町) 1,276人 その他十勝 40人 十勝以外 11人

1-12) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(自由回答)

- その他の意見・要望としては、整備への要望や期待、整備方針が多く挙げられた。
- 一方で、費用対効果や現道の商店等の衰退への危惧等を懸念する声も見られる。

▼その他の意見・要望

質問3. その他、大樹～広尾間について、ご意見やご要望がありましたら、ご自由にお書き下さい。(自由記述)

主な意見

- ・早期着工、完成を要望する。
- ・この道路整備は単に大樹・広尾地区の住民の利便だけではなく、北海道の広域交通ネットワークとしての機能充実という観点で速やかに進めてほしい。
- ・農水産物を早く安全に運ぶために是非広尾まで早く通して欲しい。
- ・災害時、地域医療支援のために早く着工・完成して欲しい。
- ・商工業、人、家畜にとって命の道路となる。一日も早く事業化になることを心から願っている。
- ・重要港湾十勝港まで連絡して、帯広広尾道がはじめて機能するので、早期着工をお願いする。
- ・高規格道路は南十勝の拠点であり、十勝港が発展し人口に増加にもなると思うので是非早期完成することを祈っている。これからは、高齢者ばかりになる現在、若者が住める南十勝であってほしい。
- ・物流の円滑化、冬期間の交通の安全確保、十勝港の最大限の活用、移動時間の短縮など、高規格道路が完成すれば、色々な面で十勝が一体となり、活性化すると思う。
- ・防災の面からも高速道路はつなげて整備すべきである。
- ・生活に密接するこの道路、次世代のためにも是非完成させてもらいたい。
- ・ICの増設と短区間での供用を随時行って効果を上げる計画にして欲しい。
- ・出来るだけ農耕地をさけて、大樹、石坂、豊似、野塚市街地を大きく迂回する路線計画を希望する。
- ・ICは地元にとって利用しやすい場所をお願いしたい。
- ・大型車が多くなると思うので、追越し車線を多くして欲しい。
- ・忠類・大樹IC～広尾間の現国道を2車線にすればすべて解決する。その後の道路の維持費も安く済むのでは。
- ・高規格道路より国道を片側二車線にして欲しい。
- ・冬期間の除雪を徹底して欲しい。
- ・現有道路で十分。新たな道路整備は不要と考える。
- ・税金の無駄遣い。
- ・大樹町中を通過する車の減少で、道の駅コスモールや商店街の買い物客の減少を心配する。

総回答者数 589人, 総意見数 635件

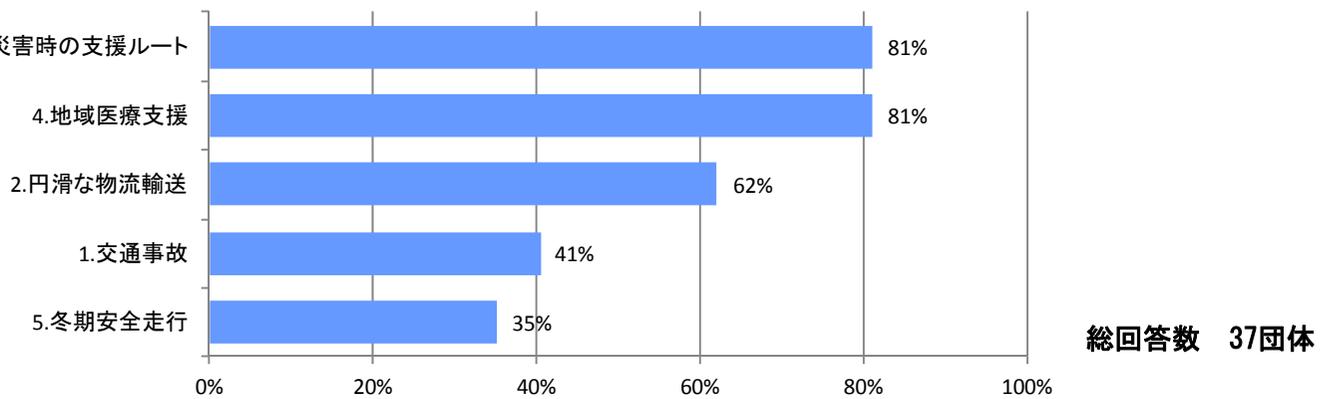
※掲載件数は意見件数に応じた。掲載件数は意見件数の3% (1件以下切り上げ)



- 現状の課題に対して地域に求められる道路の機能としては、全体では災害時の支援ルート、地域医療支援に関する回答が多い。
- 理由としては、地域住民の生命財産を守る必要性、地域産業の活性化の必要性等が意見として寄せられた。

質問1. 現状の課題を踏まえ、大樹～広尾間はどのような機能をもつ道路にすると良いと思いますか？以下に示す5つの道路の機能より重要と思うものを3つ選択し、その理由をお聞かせください。(重要と思うもの3つを選択し、理由を回答)

▼大樹～広尾間の道路に求められる機能 (各選択肢の選択割合)



▼選択した道路機能が重要だと思う理由

道路機能	主な意見
災害時の支援ルート	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災においても高速道路がいち早く緊急交通路として指定され、避難、救助、物資輸送などで果たした役割は大きく「命の道」として高規格幹線道路網の整備が必要不可欠。【帯広市】 ・将来必ず来るであろう大災害(地震、津波)に備え、特に大樹町、広尾町にかかる古い橋梁のバックアップ(二次幹線)として、災害時の支援ルートを確保。【更別村商工会】
地域医療支援	<ul style="list-style-type: none"> ・十勝管内の高次医療は帯広市内の医療機関を中心に行われており、特に脳疾患は迅速な対応が必要とされ、これからの超高齢社会には欠かせないルート。【広尾町商工会】 ・地域住民の生命・財産を守る立場として、災害時支援や緊急・救急搬送を支える社会基盤である「道路」の機能強化は重要。【南十勝消防組合】
円滑な物流輸送	<ul style="list-style-type: none"> ・十勝地区は国内屈指の食糧基地であり、札幌や函館地区とともに「食」の研究開発拠点を形成するため、「北海道フードコンプレックス国際戦略総合特区」として国に指定されており、道東地域における生産基盤確立のためにも、主要都市を結ぶ交通アクセスの向上が必要。【帯広市】 ・農水産業等の地域産業を支える十勝港をつなぎ、安全安心で円滑な物流効率化を支援する道路網の整備は重要。【十勝地区トラック協会】
交通事故	<ul style="list-style-type: none"> ・運送用大型車両と一般車両を分離することで交通事故のリスクを回避することが可能となる。また農業用車両の移動リスクも回避出来る。【大樹町商工会】
冬期安全走行	<ul style="list-style-type: none"> ・冬期の安全性確保は物流、医療、交通安全等の全ての項目に関わってくるので最重要と認識。【様似町】



○政策目標の案については、ヒアリングを行った市町村・関係団体の大部分が、すべての政策目標について言及しており、妥当との意見をいただいた。

凡例

●:意見あり

-:意見なし

▼ヒアリング調査にて政策目標の案について言及した内容

分類 政策目標	沿線自治体 (10団体)	産業団体				消防・医療		教育機関		
		商工会 (8団体)	観光団体 (1団体)	輸送関連 団体 (4団体)	農水産業 関連団体 (2団体)	消防組合 (2団体)	病院 (1団体)	教育 委員会 (2団体)	学校 (3団体)	保育園・ 保育所 (4団体)
		1.『防災』 災害時の信頼性の 高いネットワーク	●	●	●	●	●	●	-	●
2.『物流』 安全な物流 ルートの確保	●	●	●	●	●	●	-	●	●	●
3.『医療』 高次医療施設 へのアクセス向上	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●



○政策目標の案のうち、「災害時の信頼性の高いネットワーク」については以下のような意見が寄せられた。

▼政策目標の案に対する考え
(防災関連)

質問2. 達成すべき政策目標(案)を設定しましたが、それぞれの政策目標についてのお考えをお聞かせください。

政策目標	分類	主な意見
災害時の信頼性の高いネットワーク	沿線自治体	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害が発生した場合、被災地のみでは十分に被災者の救援等が実施できないことが予想され、他地域からの応援が必要であるが、災害時には各地で交通が寸断され、地域の孤立や大きな迂回が必要となる状況が発生する。十勝地域はこれまでも大規模な地震が頻発しており、広尾町への唯一の連絡路である国道が寸断されれば、広尾町民が孤立する恐れがあり、救助・救援活動をささえる代替性の高いネットワーク形成が必要。【帯広市】 ・橋梁や道路の寸断による地域や住民の孤立の防止や災害対応等で重要な空港や駅、中心都市と港湾を結ぶ道路を複数系統確保することは重要。【大樹町】
	産業団体	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災では、道路、港湾、鉄道等に多大なダメージがあった。しかし東北自動車道は健在で後にその重要性が認識された。今後の災害に備え強靱な災害時のネットワークの構築は急ぐべき。【更別村商工会】 ・災害時に要請があった場合、被災者避難等にバスが移動手段を担うケースもあるため、災害時の避難ルート機能の確保、強靱な道路網は必要。また冬期の雪害等による交通機能のマヒは北海道特有のものであり防雪対策は重要。【北海道バス協会】
	消防・医療	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災で被った大規模災害は今後にかさなければならぬ教訓。地震、津波、その他自然災害により広尾町が大規模に被災し、周辺から支援が必要な時には確実な輸送路確保は必須となる。輸送路の代替性、多重性確保は重要であるとともに、道路施設等を災害拠点に活用するなど賢い使い方への視点も重要。【南十勝消防組合】
	教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ・近い将来の大規模震災等への備えを考へても国道1本しかないことに不安を感じる。地域の安全性の向上、将来のまちづくりの点からも強靱で代替性のある道路網は必要。【学校】 ・子供達の命を守ることから大規模災害に備えた強靱なネットワークや、リスク回避を意識した施策は重要。【学校】



○政策目標の案のうち、「安全な物流ルートの確保」については以下のような意見が寄せられた。

▼政策目標の案に対する考え
(産業活動関連)

質問2. 達成すべき政策目標(案)を設定しましたが、それぞれの政策目標についてのお考えをお聞かせください。

政策目標	分類	主な意見
安全な物流ルートの確保	沿線自治体	<ul style="list-style-type: none"> ・十勝は国内屈指の食料生産基地であり、十勝の食料自給率は1100%で四国4県400万人の食料を補えるほどである。また、十勝港は取扱貨物量の大半を農業関連物資が占めるなど十勝の農業にとって重要な役割を果たしている。安全な物流ルートの確保が必要であるとともに、輸送時間の短縮や地域間の連携強化などが期待でき、全国へ安心・安全で安定した食糧供給に寄与することができる。【帯広市】 ・重要港湾十勝港と帯広空港を結び、更に道東ネットワークを形成し日本の食糧基地である十勝の農業をはじめ、観光・物流など地域産業の活性化が期待される。【広尾町】
	産業団体	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道は日本の食糧基地として大きなウェイトをしめており、安心・安全な食料を安価に大量輸送するには十勝港の利用拡大の他にはない。【更別村商工会】 ・十勝の観光産業は「食」と「農」。地域の基幹産業を支える物流ルートの強化は観光産業の立場からも重要。【十勝観光連盟】
	教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地から大型車が少なくなる施策は園児や歩行者の安全確保のためにも重要。【保育園・保育所】 ・広尾町の小中学校給食のパンや牛乳は帯広から毎日搬送されていることもあり、安全な輸送ルートの確保は重要。【教育委員会】



○政策目標の案のうち、「高次医療施設へのアクセス向上」については以下のような意見が寄せられた。

▼政策目標の案に対する考え
(医療関連)

質問2. 達成すべき政策目標(案)を設定しましたが、それぞれの政策目標についてのお考えをお聞かせください。

政策目標	分類	主な意見
高次医療施設へのアクセス向上	沿線自治体	<p>・北海道では高度で専門的な医療サービスを提供する三次医療圏を地域単位として地方センター病院を指定しており、これらセンター病院のある中核都市までのアクセス向上が重要な課題となっている。十勝圏では帯広厚生病院が指定されており、南十勝地域においては周産期医療や高次医療を帯広市の病院に依存している状況であるため、高規格道路の整備により、搬送時間の短縮や患者への負担軽減、また冬期間でも安全に走行出来ることから、安定した医療サービスが期待でき、地域住民の暮らしの安心・安全につながる。【帯広市】</p> <p>・道内は広大で、高度な機能をもつ医療機関までの救急搬送は、移動時間が長く時間もかかる。高規格道路の整備により救える命をできる限り救う事を願う。【えりも町】</p>
	産業団体	<p>・広尾方面から帯広市へ救急医療患者搬送は、長時間を要するため一刻一秒一人ひとりの大切な命を守る意味からアクセス向上は急務である。医療体制に恵まれた都市圏とは公平感に大きな差がある。【更別村商工会】</p> <p>・高齢者が多い地方部では帯広へ買い物や医療受診のため日常の足としてバスを利用する方々がいる。日常的な医療を支える上でも医療アクセス向上は重要。【バス会社】</p>
	消防・医療	<p>・帯広市への救急搬送は長距離移動を余儀なくされるため搬送時間短縮による患者への負担軽減のほか、広尾町内の救急車両不在時間削減のためにも速達性向上は重要。また、冬期でも早く安全に搬送できる道路整備を望む。【南十勝消防組合】</p>
	教育機関	<p>・小児医療については町立病院があるが実際はほとんどが帯広市に通っている現状。地域にいながら帯広市の医療サービスを迅速に受けられると言う面からも高規格道路があればよい。【保育園・保育所】</p> <p>・診療科目が少ない事への不安を訴える親御さんも多く、特に妊産婦は深刻な問題。都市部へのアクセス向上は子供を安心して産み育てられ、地域の暮らしの豊かさを支えるうえで重要。【保育園・保育所】</p>

1-18) 地域意見聴取の結果 ヒアリング調査(自由意見)

○その他の意見・要望としては、観光振興、早期着工・完成要望、整備方針等に関する声が寄せられた。

▼大樹～広尾間についてのその他の意見・要望

質問3. その他、大樹～広尾間について、ご意見やご要望がありましたら、お聞かせください。

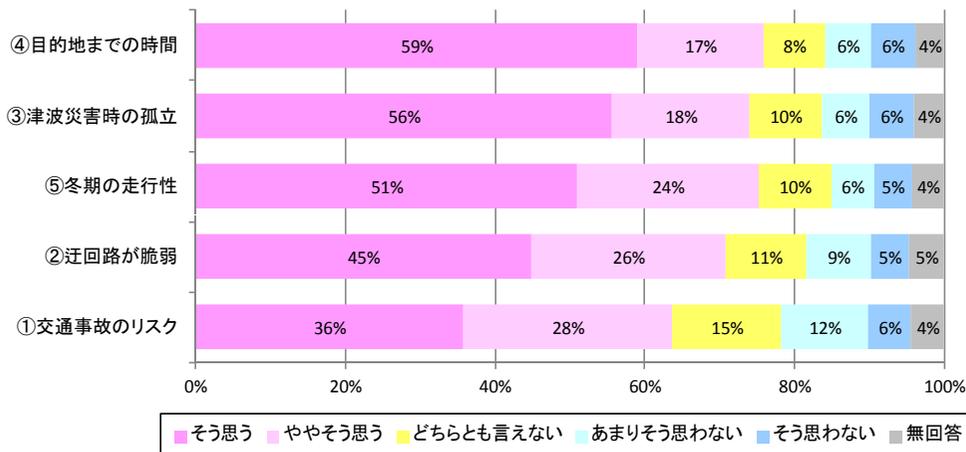
分類	主な意見
沿線自治体	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部と地方部では様々な分野で生活上の格差があるのが現状。高規格幹線道路網の整備により、住民のくらしの安心・安全や利便性・快適性の向上、産業における安全な物流ルート確保のほか、観光等の交流機会の拡大も期待される。【帯広市】 ・平成25年度に日高東部・十勝南部広域連携推進協議会が発足しており、道東の高規格幹線道路ネットワーク整備が進むことにより、新たな広域観光ルートが形成され、観光振興に期待できる。【広尾町】
産業団体	<ul style="list-style-type: none"> ・生命と生活を守る上で道路網整備の必要性は大きく、広大な北海道の大動脈として南にのびるルートは十勝港まで到達しなければその効果を発揮できない。早期着工と完成を要望する。【幕別町商工会】 ・道東道開通前はストロー効果による札幌都市部への流出を懸念していたが、開通後は逆に観光客が増加し交流人口が増えていると実感している。十勝や道東の観光産業のためにももっと高速料金の値下げをお願いしたい。【十勝観光連盟】 ・観光バスは時間や安全性の面から高速道路がないと成り立たない。道路整備が観光産業の支援に繋がっていく。整備にあたってはドライバーのストレス軽減のため2車線化や追い越し車線の整備、お客様の疲労からも休憩施設やトイレの確保もお願いしたい。【北海道バス協会】 ・北海道の広域分散型や全国の食糧基地という特性を踏まえ、輸送トラックの高速料金の値下げをお願いしたい。【北海道トラック協会】
消防・医療	<ul style="list-style-type: none"> ・救急車両の安全な走行のためにも、追い越し車線や一般車両の待避スペースの確保を視野に入れた整備をお願いしたい。また、高規格道路はICが多くあれば搬送中の患者の様態変化に臨機に対応出来るため、より使いやすい。【南十勝消防組合】
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ・帯広市へ進学塾に通う生徒が全体の1割程度おり、交通ネットワーク強化は地域の教育を支えるうえでも重要。【学校】 ・高校総体や中体連、部活動の大会などは帯広市で開催される事が多く、開催地への移動時間が長いため、早朝からの移動を余儀なくされるなど活動上のハンディキャップがある。【学校、教育委員会】 ・整備の際には高速バスなどの公共交通インフラの整備も望む。【教育委員会】

2. 地域意見を踏まえた政策目標の設定

○第1回地域意見聴取の結果、現道の課題及び道路に求められる機能、政策目標(案)の妥当性を確認できた。
 ○また、政策目標(案)を満足するための機能を有する道路整備の必要性を感じていることを確認した。

▼地域住民が感じる道路課題

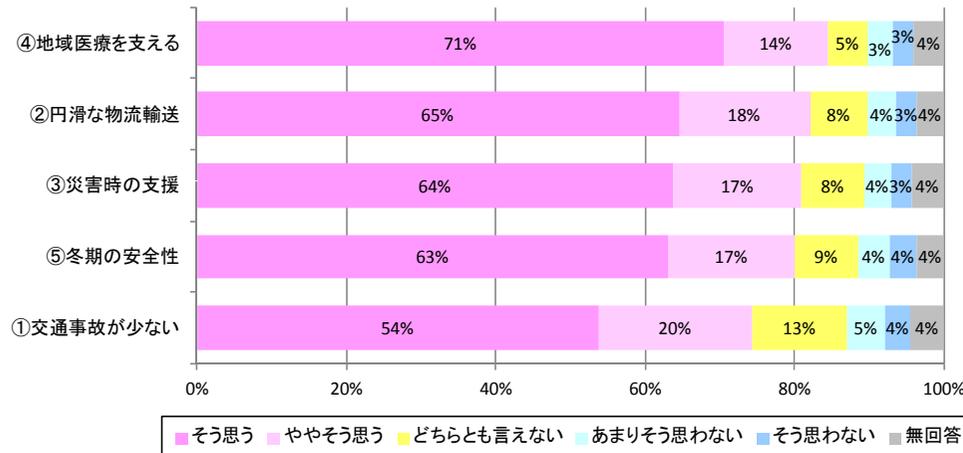
総回答者数 1,616人



▼大樹～広尾間の道路に求められる機能に対する回答結果

【アンケート】

総回答者数 1,616人



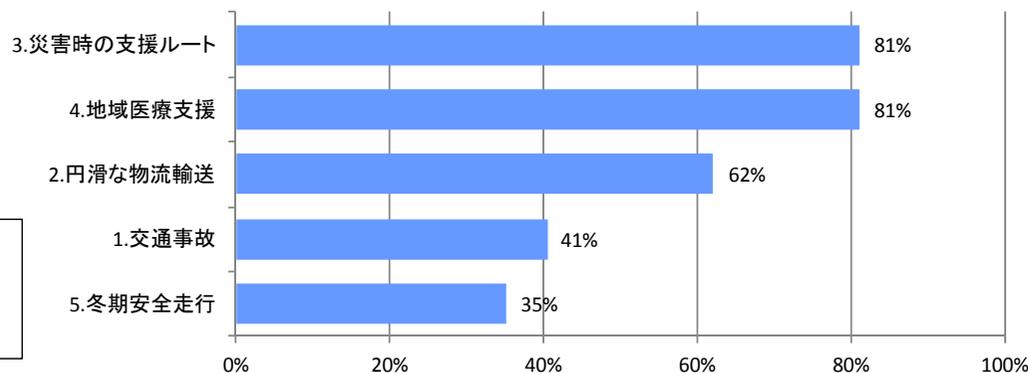
▼自治体・関係団体からの政策目標の案の設定に対する意見

分類 政策目標	沿線自治体	産業団体	消防・医療	教育機関
	(10団体)	(15団体)	(3団体)	(9団体)
1.『防災』 災害時の信頼性の 高いネットワーク	●	●	●	●
2.『物流』 安全な物流 ルートの確保	●	●	●	●
3.『医療』 高次医療施設 へのアクセス向上	●	●	●	●

凡例
 ●: 意見あり
 -: 意見なし

【ヒアリング】

総回答数 37団体



政策目標(案)を満足するための機能を有する道路整備の必要性を確認

2-2) 政策目標の設定

- 地域意見聴取を踏まえ、本地域の政策目標を設定
- 既存の道路ストックの活用や別線整備等の対策案を検討

■政策目標の設定

地域や道路の状況や課題

圏域と地域の将来像

1. 災害時の信頼性の高いネットワークの構築
2. 貨物車等の安全な走行環境や物流ルートの確保による産業支援
3. 地域の医療不安を解消する高次医療施設へのアクセス向上

■対策案の検討

【防災関連】

- ・事故や冬期災害等緊急時の路線の多重性を確保
- ・大規模災害時の避難や被災時の救援により広尾町の孤立を回避

【産業活動関連】

- ・道路機能の分化による貨物車関連事故件数の減少
- ・全国への食料供給を支える十勝港アクセスルートの安全性・確実性の確保

【医療関連】

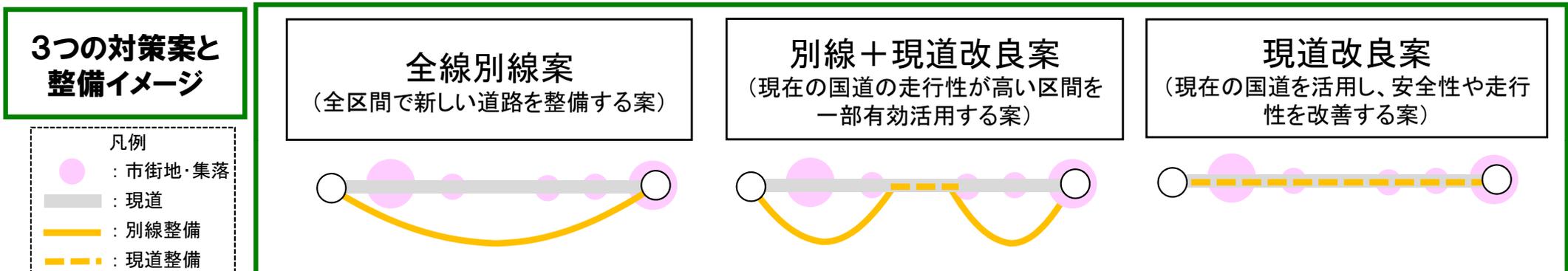
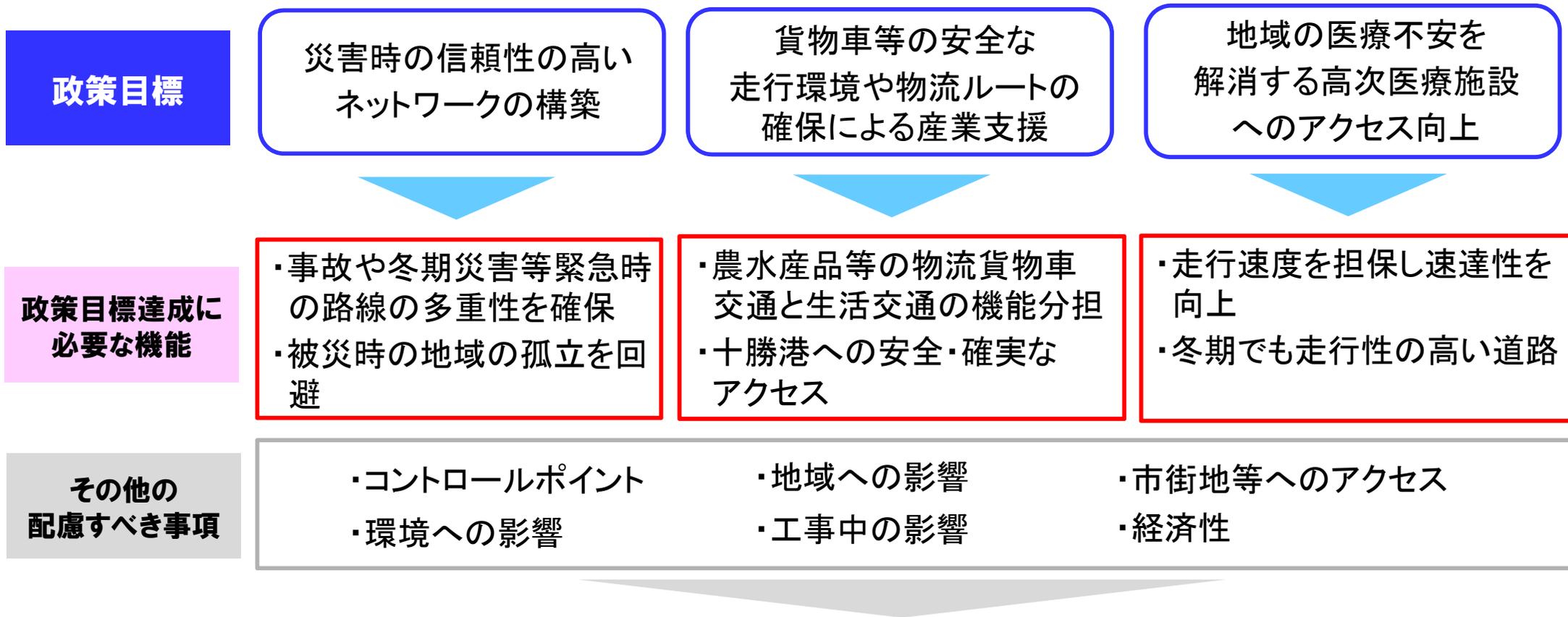
- ・速達性、走行性の向上による高次医療施設への搬送時間の短縮、高次医療施設60分カバー圏の拡大

既存の道路ストック活用や別線整備等の対策案を検討

3. 路線の整備方針（案）

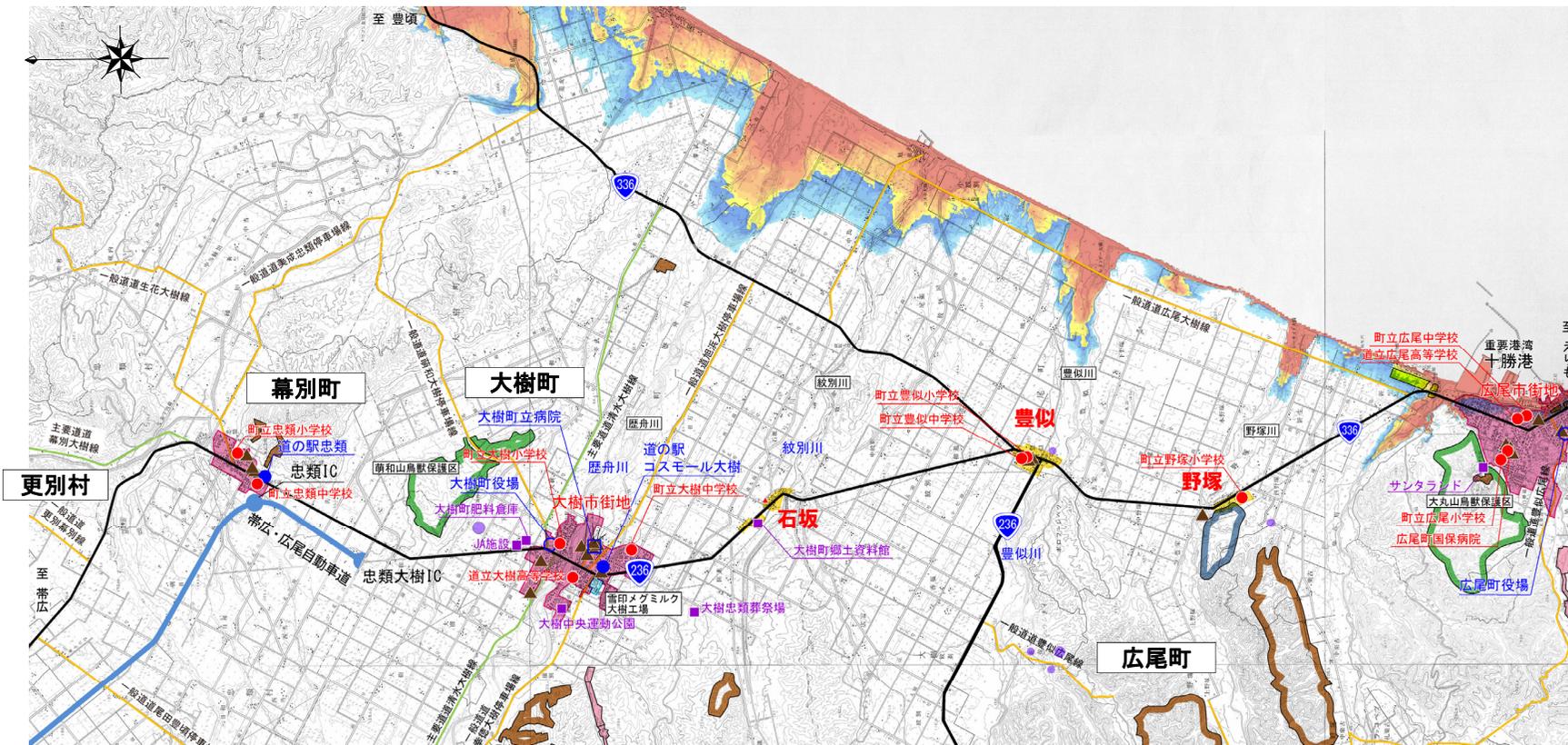
3-1) 路線の対策案の考え方

○第1回意見聴取で地域の課題、政策目標等について確認したことから、政策目標の達成に必要な道路機能と配慮すべき事項等を踏まえて、以下のような3つの対策案を設定。



3-2) 対策案のコントロールポイントの考え方

○各対策案検討のコントロールポイントとしては、学校や病院、都市計画区域等の社会的状況や環境関係法令等に基づくコントロールポイントに配慮。



凡 例	
	帯広・広尾自動車道
	一般国道
	主要地方道
	一般道道

凡 例	
	土砂流出防備保安林
	土砂崩壊防備保安林
	水源かん養保安林
	保健保安林
	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づく鳥獣保護区
	砂防法に基づく地
	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律に基づく急傾斜地崩壊危険区域
	遺 跡
	福 祉 施 設
	市 街 地
	沿 線 集 落

凡 例	
	●津波浸水予測範囲 (最大浸水深) (m)
	1.0m未満
	1.0m以上 2.0m未満
	2.0m以上 3.0m未満
	3.0m以上 4.0m未満
	4.0m以上 5.0m未満
	5.0m以上 6.0m未満
	6.0m以上 7.0m未満
	7.0m以上 8.0m未満
	8.0m以上 9.0m未満
	9.0m以上 10.0m未満
	10m以上

▼コントロールポイントの概要

社会状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆市街地(都市計画区域)や集落 ◆公共施設(役場、病院、学校、福祉施設等) ◆史跡・遺跡
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ◆保安林(水源かん養、土砂流出防備、土砂崩壊防備、保健保安林) ◆鳥獣保護区 ◆災害危険箇所(津波予測浸水区域)
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> ◆優良農地の分断 ◆地吹雪の抑制

3-3) コントロールポイントの補足

◆災害危険箇所(津波予測浸水区域)

津波等の大規模災害時の避難・救援ルートを確認し地域の孤立を回避する案を検討。

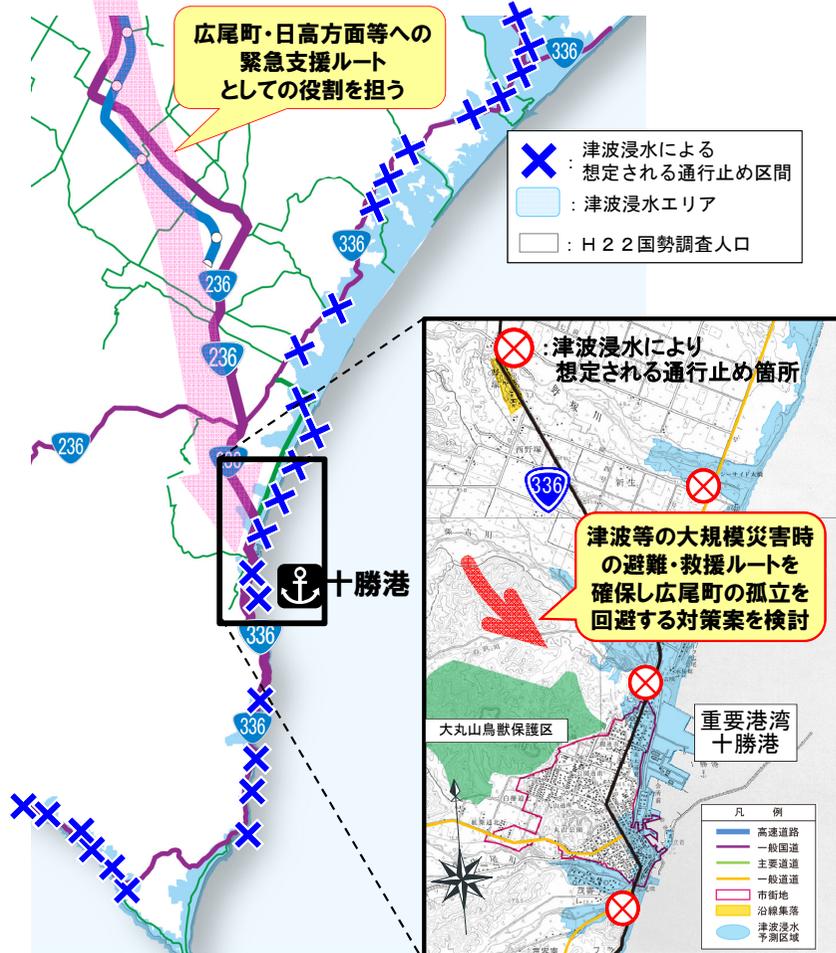
◆優良農地の分断

十勝地域は大型農業機械を導入することで効率的な生産を可能にしているため、区画が大きく設定。農地の分断は作業効率の低下や耕作不適地となるため、農地分断に配慮した案を検討。

◆地吹雪の抑制

地吹雪による視程障害に強い道路とするため既存林等を極力活用できる案を検討。

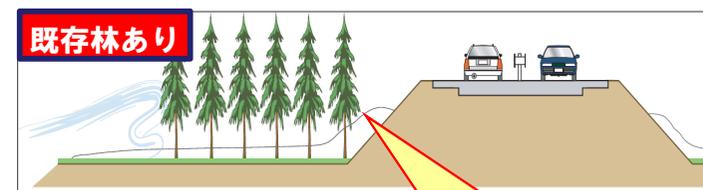
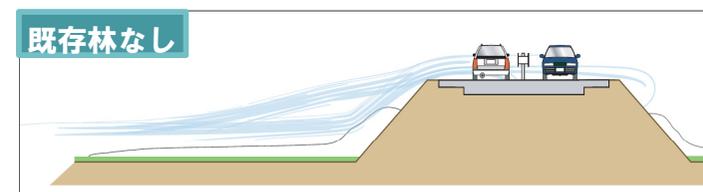
▼避難・救援ルートの確保、孤立の回避のイメージ



▼農地分断・家屋等への影響のイメージ



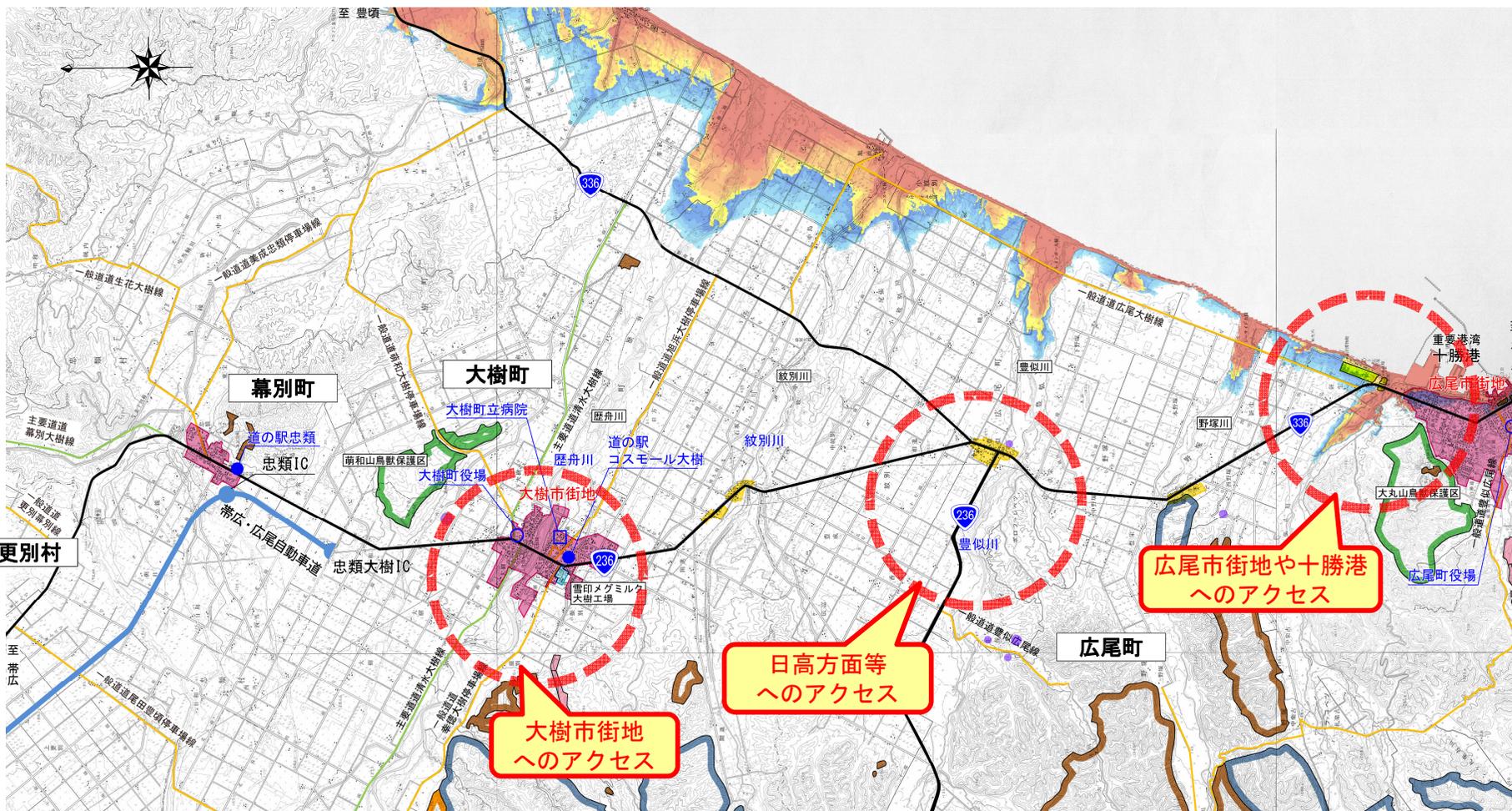
▼地吹雪に対する安全性の考え方



既存の山林や防風林等を活用することにより、地吹雪による視程障害を抑制

3-4) 連結位置(IC位置)の基本的な考え方(案)

- 地域の拠点となる施設が集積する大樹町や広尾町の市街地等へのアクセス性。
- 地域産業支援のため、十勝港からの利便性を考慮。
- 大規模災害時の効果的な避難や被災時の救援活動に寄与する位置。
- 各方面への円滑な交通流動を支援できる位置。



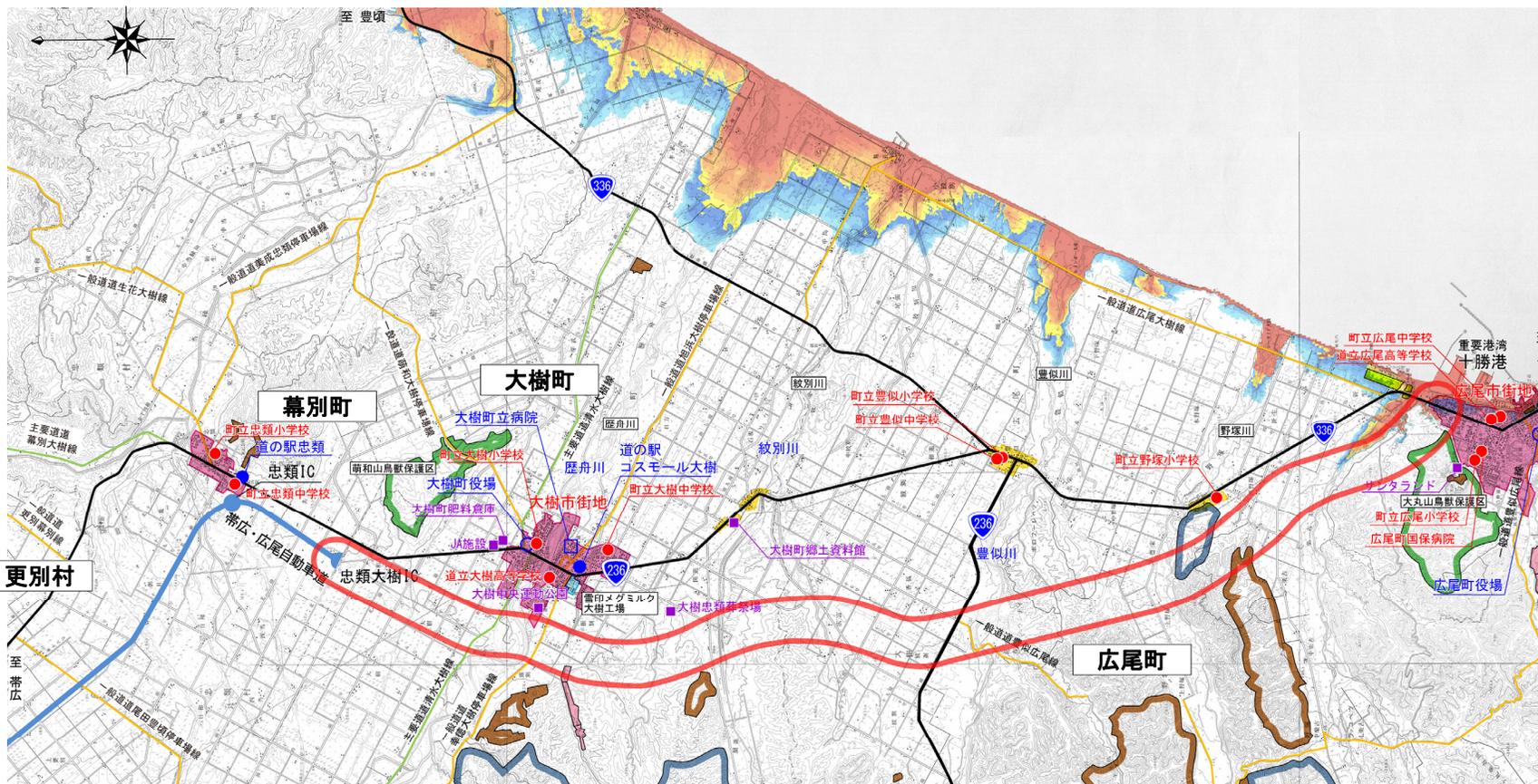
凡 例	
	帯広・広尾自動車道
	一般国道
	主要地方道
	一般道道

凡 例	
森林法に基づく保安林	土砂流出防備保安林
※防風防覆保安林は除く。	土砂崩壊防備保安林
	水源かん養保安林
	保健保安林
その他の法令	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づく鳥獣保護区
	砂防法に基づく砂防指定地
	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律に基づく急傾斜地崩壊危険区域
	遺跡
	市街地
	沿線集落

凡 例	
●津波浸水予測範囲(最大浸水深)(m)	1.0m未満
	1.0m以上 2.0m未満
	2.0m以上 3.0m未満
	3.0m以上 4.0m未満
	4.0m以上 5.0m未満
	5.0m以上 6.0m未満
	6.0m以上 7.0m未満
	7.0m以上 8.0m未満
	8.0m以上 9.0m未満
	9.0m以上 10.0m未満
	10m以上

3-5) 対策案の検討【案①】別線案

○山側を通過することで、農地の斜め分断や土エバランス等に配慮し、全区間において別線で整備する案。



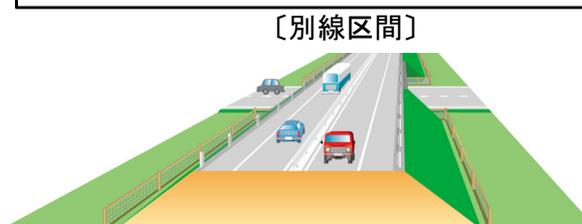
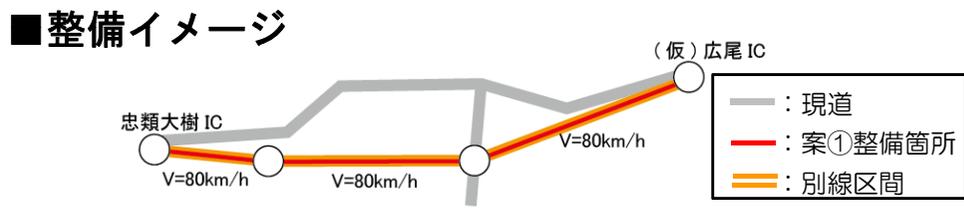
凡例	
	帯広・広尾自動車道
	一般国道
	主要地方道
	一般道道

凡例	
	土砂流出防備保安林
	土砂崩壊防備保安林
	水源かん養保安林
	保健保安林
	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づく鳥獣保護区
	砂防法に基づき砂防指定地
	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律に基づく急傾斜地崩壊危険区域
	市街地
	沿線集落

凡例	
	津波浸水予測範囲(最大浸水深)(m)
	1.0m未満
	1.0m以上 2.0m未満
	2.0m以上 3.0m未満
	3.0m以上 4.0m未満
	4.0m以上 5.0m未満
	5.0m以上 6.0m未満
	6.0m以上 7.0m未満
	7.0m以上 8.0m未満
	8.0m以上 9.0m未満
	9.0m以上 10.0m未満
	10m以上

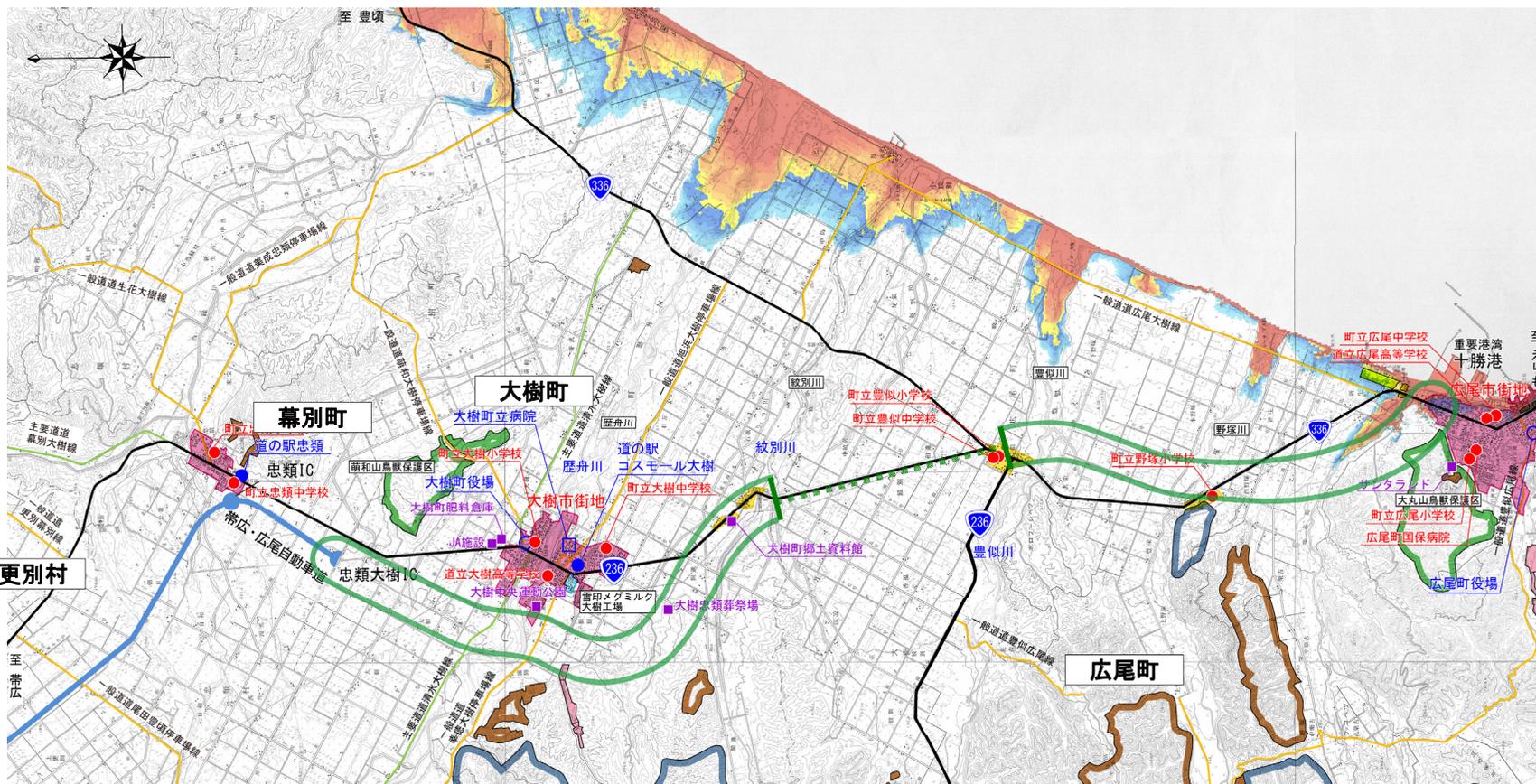
整備概要	延長	約28km
	構造	サービス速度80km/h (自動車専用道路)
	コスト	約350~380億円

- 特徴**
- ・幹線道路が2本になり、大規模災害時の避難や被災時の救援により地域の孤立を回避。
 - ・物流貨物車等の通過交通と生活交通を分離し安全性が向上。
 - ・帯広市の高次医療施設等への所要時間が最も短縮。
 - ・土エバランスが図られるため、経済的な整備が可能。



3-6) 対策案の検討【案②】別線+一部現道改良案

○現道と自動車専用道路とのアクセスを重視し、走行性の高い区間で一部現道改良を行う案。



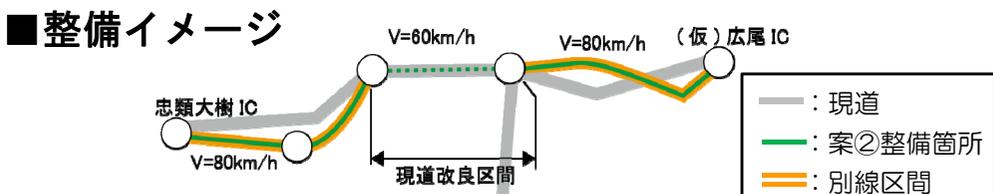
凡例	
	帯広・広尾自動車道
	一般国道
	主要地方道
	一般道道

凡例	
	土砂流出防備保安林
	土砂崩壊防備保安林
	水源かん養保安林
	保健保安林
	鳥獣保護区
	砂防法に基づく砂防指定地
	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律に基づく急傾斜地崩壊危険区域
	市街地
	沿線集落

凡例	
●津波浸水予測範囲(最大浸水深)(m)	
	1.0m未満
	1.0m以上 2.0m未満
	2.0m以上 3.0m未満
	3.0m以上 4.0m未満
	4.0m以上 5.0m未満
	5.0m以上 6.0m未満
	6.0m以上 7.0m未満
	7.0m以上 8.0m未満
	8.0m以上 9.0m未満
	9.0m以上 10.0m未満
	10m以上

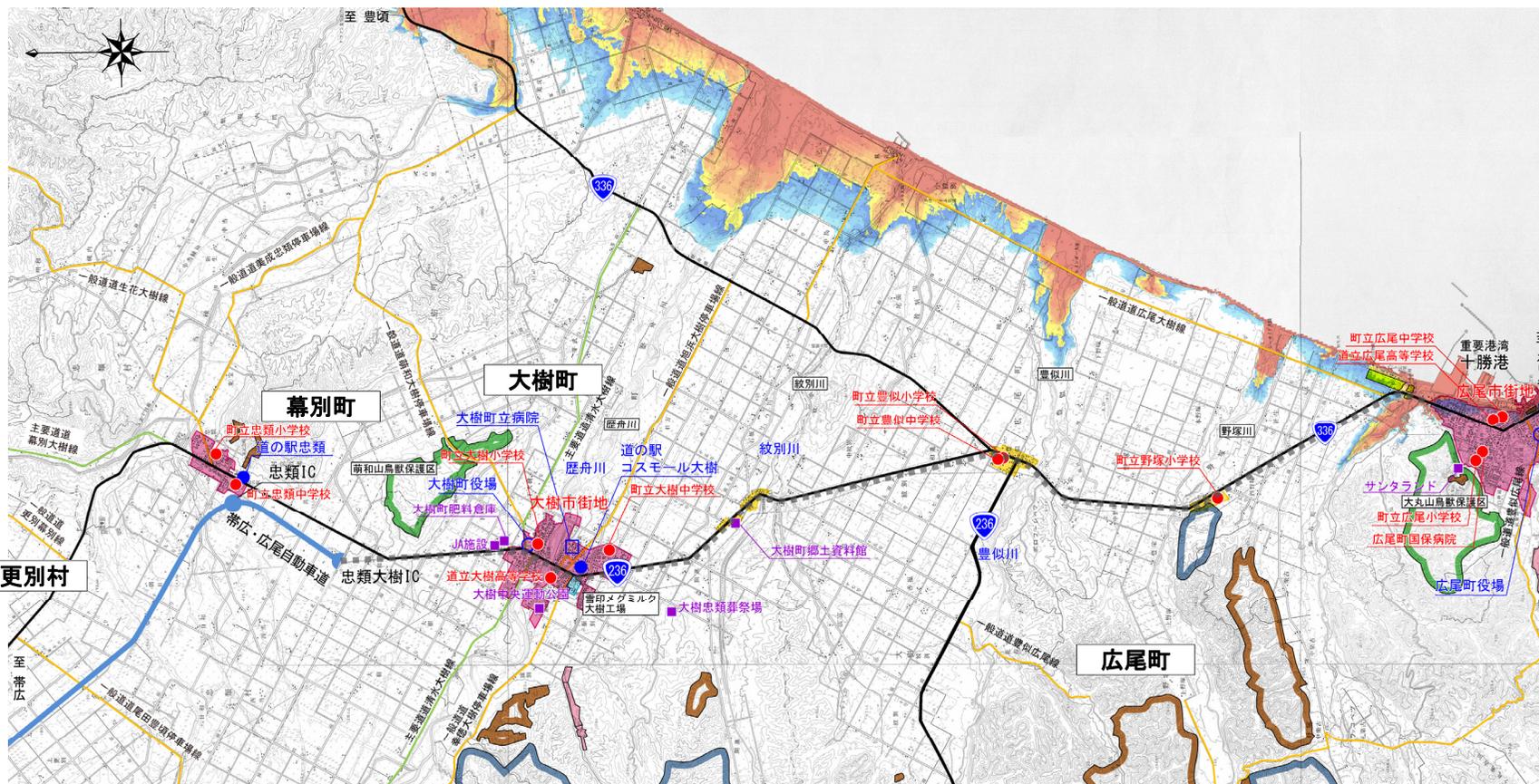
整備概要	延長	約29km(自動車専用道路+現道改良)
	構造	サービス速度 80km/h(自動車専用道路) 60km/h(一般道路)
	コスト	約360~390億円

- 特徴**
- ・大規模災害時の避難や被災時の救援により地域の孤立を回避。
 - ・主要な市街地のほか、沿線集落へのアクセスも確保。
 - ・平地部を通過するため、農地分断の影響は比較的大きい。
 - ・現道改良区間でのコストは抑えられるが、その他の区間で不足土となり経済性に劣る。



3-7) 対策案の検討【案③】現道改良案

○現在の国道をそのまま活用し、安全性や走行性を改善する案。



凡例	
	帯広・広尾自動車道
	一般国道
	主要地方道
	一般道道

凡例	
	土砂流出防備保安林
	土砂崩壊防備保安林
	水源かん養保安林
	保健保安林
	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づく鳥獣保護区
	砂防法に基づき砂防指定地
	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律に基づく急傾斜地崩壊危険区域
	市街地
	沿線集落

凡例	
●津波浸水予測範囲 (最大浸水深)(m)	
	1.0m未満
	1.0m以上 2.0m未満
	2.0m以上 3.0m未満
	3.0m以上 4.0m未満
	4.0m以上 5.0m未満
	5.0m以上 6.0m未満
	6.0m以上 7.0m未満
	7.0m以上 8.0m未満
	8.0m以上 9.0m未満
	9.0m以上 10.0m未満
	10m以上

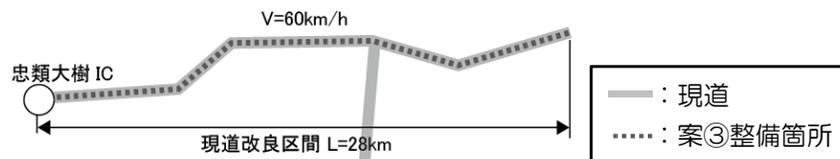
■整備概要

延長	約28km
構造	サービス速度60km/h (一般道路)
コスト	約90~110億円

■特徴

- ・コストは大幅に抑えられる。
- ・政策目標は事故軽減が多少改善されるのみ
- ・工事中の交通への影響は大きい。

■整備イメージ



〔整備前〕

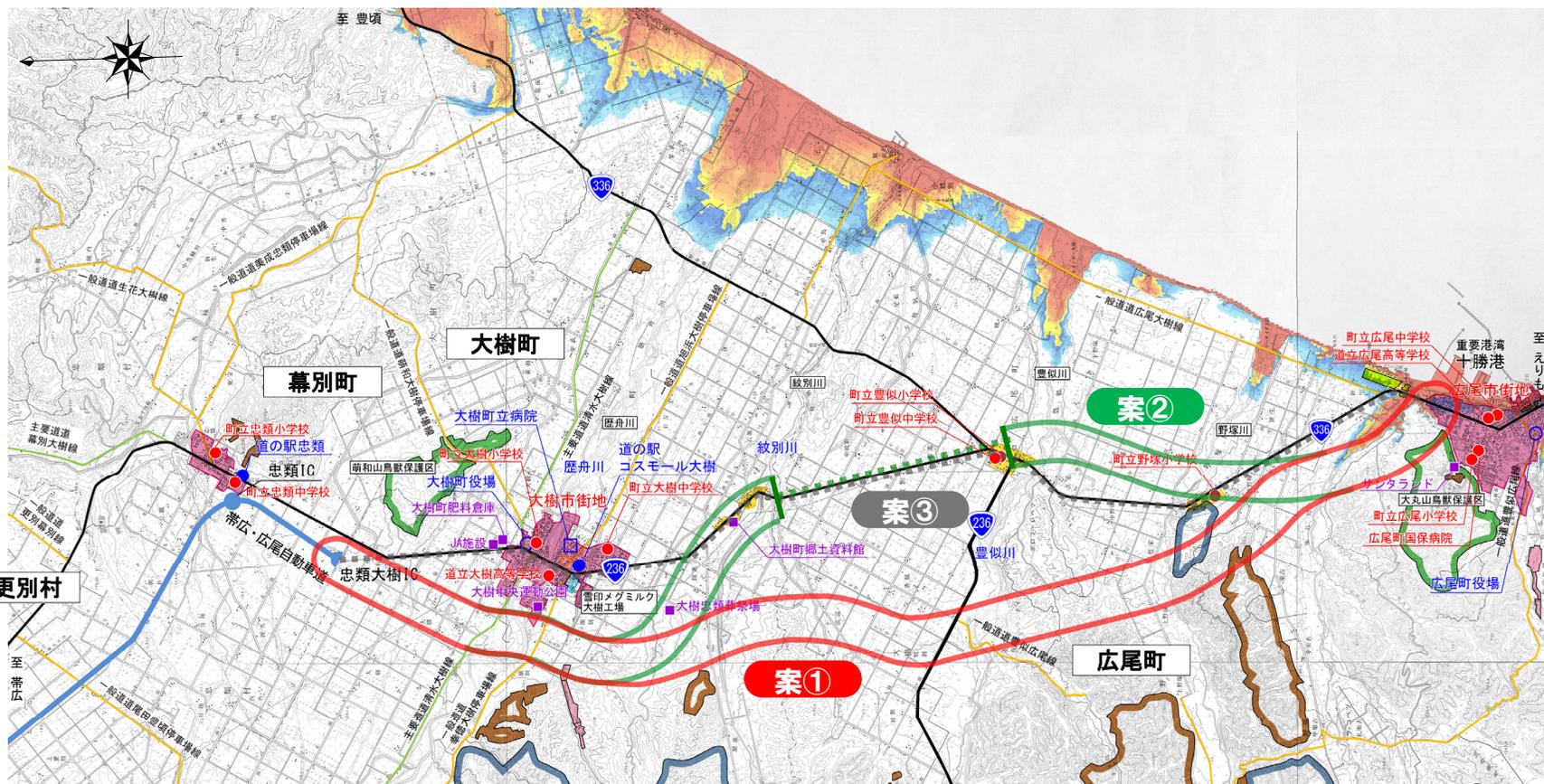


〔整備後〕



3-8) 対策案の概要

○コントロールポイントを踏まえ、政策目標達成に必要な機能から3つの対策案を設定。



凡例	
	帯広・広尾自動車道
	一般国道
	主要地方道
	一般道道

凡例	
	土砂流出防備保安林
	土砂崩壊防備保安林
	水源かん養保安林
	保健保安林
	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づく鳥獣保護区
	砂防法に基づく砂防指定地
	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律に基づく急傾斜地崩壊危険区域
	市街地
	沿線集落

凡例	
●津波浸水予測範囲 (最大浸水深) (m)	
	1.0m未満
	1.0m以上 2.0m未満
	2.0m以上 3.0m未満
	3.0m以上 4.0m未満
	4.0m以上 5.0m未満
	5.0m以上 6.0m未満
	6.0m以上 7.0m未満
	7.0m以上 8.0m未満
	8.0m以上 9.0m未満
	9.0m以上 10.0m未満
	10m以上

■対策概要

【案①】別線案

山側を通過することで、農地の斜め分断や土工バランス等に配慮し、全区間において別線で整備する案

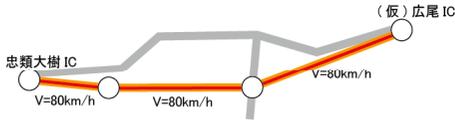
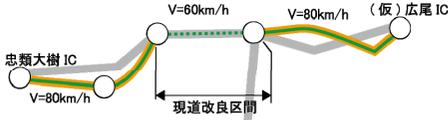
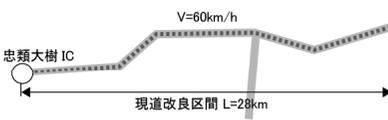
【案②】別線+一部現道改良案

現道と自動車専用道路とのアクセスを重視し、走行性の高い区間で一部現道改良を行う案

【案③】現道改良案

現在の国道をそのまま活用し、安全性や走行性を改善する案

3-9) 対策案の比較

対策案の考え方		【案①】別線案	【案②】別線+一部現道改良案	【案③】現道改良案	
		山側を通過することで農地の斜め分断や土工バランス等に配慮し、全区間において別線で整備する案	現道と自動車専用道路とのアクセスを重視し、走行性の高い区間で一部現道改良を行う案	現在の国道をそのまま活用し、安全性や走行性を改善する案	
整備イメージ					
凡例		— : 現道 — : 案①整備箇所 — : 案②整備箇所 ⋯ : 案③整備箇所 — : 別線区間			
区間延長		約28km (自動車専用道路)	約29km (自動車専用道路+現道改良)	約28km (現道改良)	
政策目標	災害時の信頼性の高いネットワークの構築	事故や冬期災害等緊急時の路線の多重性	多重性を確保できる	別線区間は多重性を確保できるが、現道改良区間はできない	多重性を確保できない
		大規模災害時の避難や救援、地域の孤立	避難・救援ルートが確保され孤立を回避できる	避難・救援ルートが確保され孤立を回避できる	災害時の避難ルートはなく、広尾町が孤立する可能性がある
	貨物車等の安全な走行環境や物流ルートの確保による産業支援	交通事故の安全性	通過交通と生活交通を分離し大きく向上できる 動物等との衝突事故も防止できる	別線区間では大きく向上でき、現道改良区間は交通安全対策が必要	現道の交通安全対策により向上する
		冬期の走行環境	既存林等の活用による地吹雪対策により最も向上できる	既存林等の活用による地吹雪対策により向上できる	地吹雪対策が必要
	地域の医療不安を解消する高次医療施設へのアクセス向上	高次医療施設への所要時間	所要時間を最も短縮できる	所要時間を短縮できる	所要時間を短縮できない
		搬送患者への負担	安定走行により大きく負担を軽減できる	安定走行により負担を軽減できる	負担軽減は見込めない
配慮すべき事項	地域への影響	優良農地の分断や家屋への影響	山側を通過するため案②に比べ小さい	平地部を通過するため案①に比べ大きい	市街地での拡幅に伴う影響はあるが、全体の影響は小さい
	環境への影響	土地の改変や自然環境への影響	比較的大きくなる可能性がある	別線整備区間では大きくなる可能性があるが、現道改良区間では小さい	比較的小さい
	市街地等へのアクセス	主要市街地や十勝港へのアクセス性	沿線集落へのアクセスは限定 十勝港、日高方面へのアクセスが良い	十勝港、沿線集落へのアクセスが良い	現在と変わらない
	工事中的影響	工事中の現道交通への影響	影響は少ない	現道改良区間は影響が大きく通行規制が必要	影響は大きく通行規制が必要
	経済性	工事内容と経済性	区間延長が案②に比べ短く、山側を通過することで土工バランスが良く、経済性に優れる	現道改良区間のコストは抑えられるが、不足土が多く経済性が劣る	現道の改良工事のため案①②に比べコストは大幅に縮減できる
		約350~380億円	約360~390億円	約90~110億円	

4. 地域意見聴取方法

4-1) 地域意見聴取方法

■意見聴取の項目

	質問内容
質問1	対策案の比較にあたって特に重視する事項
質問2	対策案の整備にあたって配慮を必要とする事項
質問3	その他配慮する項目や道路整備についての自由意見

■意見聴取の方法と対象者

対象者・実施方法			
ヒアリング	関係市町村	帯広市、芽室町、中札内村、更別村、幕別町、大樹町、広尾町、浦河町、様似町、えりも町	インタビュー形式でのヒアリング調査
	関係団体	商工会(帯広、芽室、中札内、更別、幕別、大樹、広尾、浦河)、南十勝消防組合、日高東部消防組合、帯広厚生病院、北海道十勝観光連盟、北海道バス協会、北海道トラック協会、北海道農業協同組合帯広支所、広尾漁業協同組合、大樹町、広尾町の教育委員会、学校、保育園等	
アンケート	地域住民	大樹町(約2,600世帯) 広尾町(約3,400世帯)	自治体広報誌と同時全戸配布(約6,000世帯)
	道路利用者	道の駅(中札内、更別、忠類、大樹) 道路利用者	道の駅への常設 Web(HP)掲載による実施

■ヒアリング・アンケート範囲



■第2回アンケートにおける調査方法および質問内容

①調査概要

➡ ○本調査の趣旨・今後の進め方・調査対象箇所の提示

②第1回意見聴取(アンケート調査)の結果

➡ ○「道路交通面の課題」「道路に求められる機能」について
集計結果を提示

帯広・広尾自動車道(大樹～広尾)における 道路計画に関する地域の意見聴取(第2回)

帯広・広尾自動車道は、北海道横断自動車道帯広ジャンクションから分岐し、帯広市・とちろ帯広空港を経由して、広尾町に至る延長約80kmの無料の高規格幹線道路です。
平成27年3月に更別IC～忠類大樹IC間が開通し、現在は帯広JCT～忠類大樹ICまでが利用可能となっています。
本調査は、帯広・広尾自動車道のうち、調査中区間の大樹～広尾間の道路計画について、ご意見を伺うものです。
昨年10月に実施しました第1回意見聴取では、地域の皆様が日頃感じられている道路交通面での課題や、道路に求められる機能について、ご意見をいただきました。ご協力ありがとうございました。
今回の第2回意見聴取では、地域の課題を解消するためにふさわしい対策案となるよう、計画にあたって配慮すべき事項等についてお聞きします。前回に引き続き、本調査へのご協力をいただきますようお願いいたします。

地域意見聴取の目的

■意見聴取は「計画段階評価」審議の参考となります。

国土交通省では、道路事業の透明性・効率性を高めるため、「計画段階評価」の取り組みを導入しました。これは道路整備等の整備方針(案)を、地域の声を聞きながら、第三者委員会の審議を経て決めるものです。

2014年7月から行われている「社会資本整備審議会 道路分科会 北海道地方小委員会」では、帯広・広尾自動車道(大樹～広尾)を対象として、この「計画段階評価」の審議が行われています。

この審議に当たり、地域の皆様、道路利用者、関係団体の方々のご意見を伺い、その結果を踏まえ、帯広・広尾自動車道(大樹～広尾)の整備方針(案)が決定される予定です。

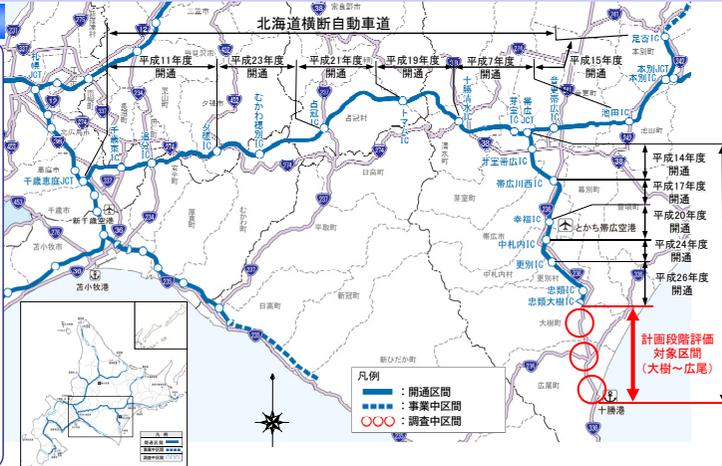
■委員会と意見聴取の手法

社会資本整備審議会
道路分科会北海道地方小委員会
地域の課題、政策目標(案)について審議

住民の皆様、関係団体への意見聴取
第1回 地域の課題、道路の機能について
第2回 対策案に求める機能や配慮事項について
平成26年10月に実施 今回

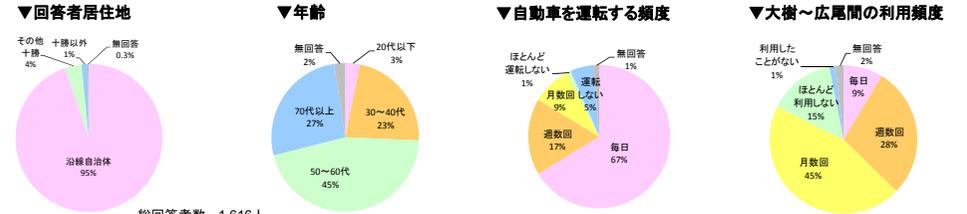
社会資本整備審議会
道路分科会北海道地方小委員会
意見聴取結果を踏まえ、「整備方針」の決定

■委員会の開催状況
http://www.kokumin.go.jp/zibokai/z_doro/shinsekai/index.html

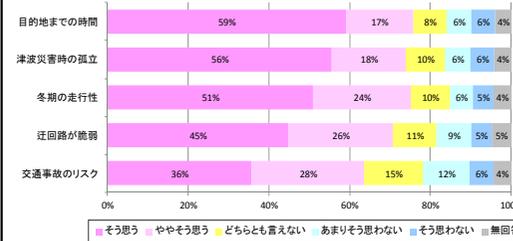


第1回意見聴取の結果

アンケート回答者の居住地、年齢、自動車運転する頻度、大樹～広尾間の利用頻度

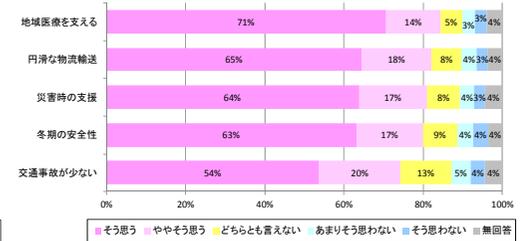


道路交通面の課題



大樹～広尾間の道路交通面の課題としては、特に「目的地までの時間」、「津波災害時の孤立」、「冬の走行性」が課題であるとの回答をいただきました。

道路に求められる機能



大樹～広尾間の道路に求められる機能としては、特に「地域医療の支援」、「円滑な物流輸送の支援」、「災害時の支援」が必要であるとの回答をいただきました。

■ 第2回アンケートにおける調査方法および質問内容

③ 第1回意見聴取(ヒアリング調査)の結果

➡ ○ 設定した政策目標に対する意見を提示

第1回意見聴取の結果

ヒアリング調査

調査対象		実施状況
沿線自治体		10
関係団体	産業団体	15
	商工会	
	観光団体	
	輸送関連団体	
農水産業関連団体		
消防・医療	3	
消防組合		
病院		
教育機関	教育委員会	9
	高校・中学校	
	保育園・保育所	
合計		37

テーマ	主な意見
災害	○ 大規模災害が発生した場合、被災地のみでは十分に被災者の救援等が実施できないことが予想され、他地域からの応援が必要であるが、災害時には各地で交通が寸断され、地域の孤立や大きな迂回が必要となる状況が発生する。十勝地域はこれまでも大規模な地震が頻発しており、広尾町への唯一の連絡路である国道が寸断されれば、広尾町民が孤立する恐れがあり、救助・救援活動を支える代替性の高いネットワーク形成が必要。
物流・産業	○ 十勝は国内屈指の食料生産基地であり、十勝の食料自給率は1100%で四国4県400万人の食料を補えるほどである。また、十勝港は取扱貨物量の大半を農業関連物資が占めるほど十勝の農業にとって重要な役割を果たしている。安全な物流ルートの確保が必要であるとともに、輸送時間の短縮や地域間の連携強化などが期待でき、全国へ安心・安全で安定した食糧供給に寄与することができる。
地域医療	○ 北海道では高度で専門的な医療サービスを提供する三次医療圏を地域単位として地方センター病院を指定しており、これらセンター病院のある中核都市までのアクセス向上が重要な課題となっている。十勝圏では帯広厚生病院が指定されており、南十勝地域においては周産期医療や高次医療を帯広市の病院に依存している状況であるため、高規格道路の整備により搬送時間の短縮や患者への負担軽減、また冬期間でも安全に走行出来ることから、安定した医療サービスが期待でき、地域住民の暮らしの安心・安全につながる。

第1回地域意見聴取のまとめ

○ 多くの道路利用者や関係団体の皆様が現道の課題や道路整備の必要性を感じています。

○ 特に災害時の孤立に対する代替性や円滑な物流輸送をはじめとする産業支援、地域医療を支える速達性向上に対して多く回答を頂きました。

大樹～広尾間に必要とされる政策目標

- 災害時の信頼性の高いネットワークの構築が必要
- 貨物車等の安全な走行環境や物流ルートの確保による産業支援が必要
- 地域の医療不安を軽減する高次医療施設へのアクセス向上が必要

↑ 頂いた意見を踏まえ政策目標を設定しました。

④ 課題解決のための対策案

➡ ○ 対象地域における課題解決のための対策案の提示

課題解決のための対策案

○ 地域意見聴取結果を踏まえ、現道の課題解決のためには、道路整備が必要と考えています。

○ 政策目標の達成に必要な道路機能、配慮すべき事項等を踏まえ、以下のような3つの対策案を考えました。

政策目標

災害時の信頼性の高いネットワークの構築

貨物車等の安全な走行環境や物流ルートの確保による産業支援

地域の医療不安を解消する高次医療施設へのアクセス向上

政策目標達成に必要な機能

- ・ 事故や冬期災害等緊急時の路線の多重性を確保
- ・ 被災時の地域の孤立を回避

その他の配慮すべき事項

- ・ コントロールポイント
- ・ 環境への影響
- ・ 地域への影響
- ・ 工事中の影響

政策目標達成に必要な機能

- ・ 農水産品等の物流貨物車交通と生活交通の機能分担
- ・ 十勝港への安全・確実なアクセス
- ・ 走行速度を担保し、速達性を向上
- ・ 冬期でも走行性の高い道路

3つの対策案と整備イメージ

凡例
● 市街地・集落
— 現道
— 別線整備
- - 現道整備

全区間で新しい道路を整備する案

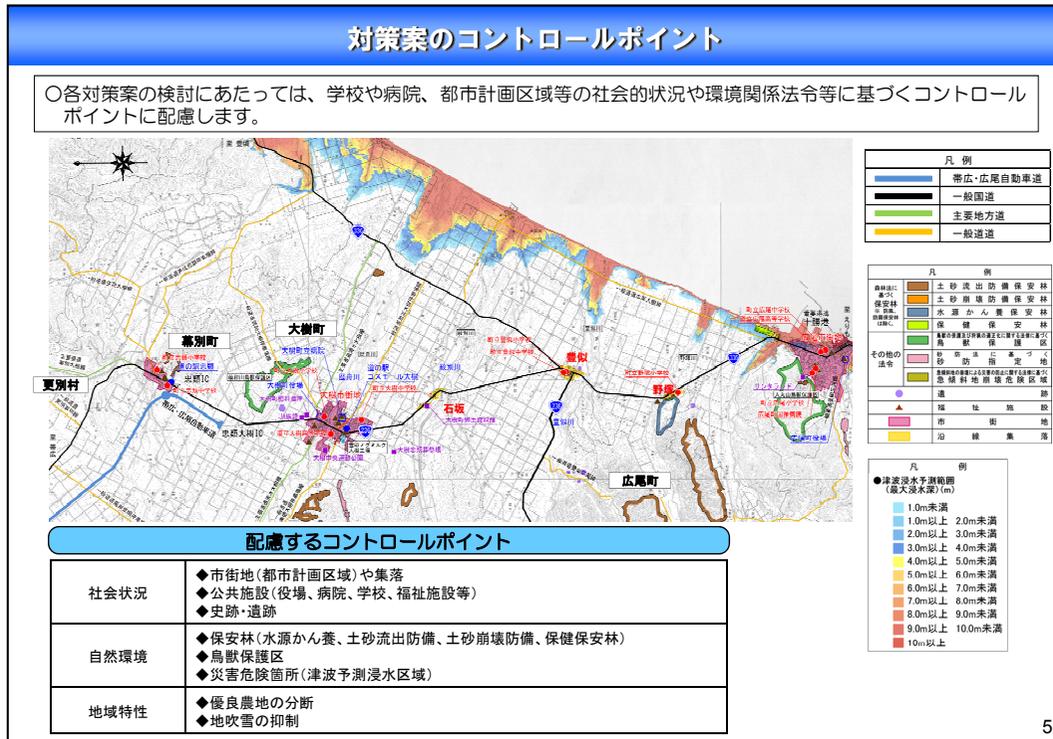
現在の国道の一部を有効活用する案

現在の国道を活用し、安全性や走行性を改善する案

■第2回アンケートにおける調査方法および質問内容

⑤対策案のコントロールポイント

➡ ○対策案の検討にあたってのコントロールポイントを提示



⑥コントロールポイントの補足

➡ ○コントロールポイントのうち、災害危険箇所(津波予測浸水区域)、優良農地の分断、地吹雪の抑制について補足



第2回アンケートにおける調査方法および質問内容

⑦3つの対策案

➡ ○各対策案を提示

3つの対策案

○政策目標達成に必要な機能とその他の配慮すべき事項を踏まえ、3つの対策案を設定しました。

【案①】全区間で新しい道路を整備する案

山側を通過することで農地の斜め分断や土工バランス等に配慮し、全区間において別線で整備する案。

整備イメージ: L=約28km

【案②】走行性の高い区間で一部現道改良を行う案

現道と自動車専用道路とのアクセスを重視し、走行性の高い区間で一部現道改良を行う案。

整備イメージ: L=約29km

【案③】現在の国道を活用する案

現在の国道をそのまま活用し、安全性や走行性を改善する案。

整備イメージ: L=約28km

7

⑧対策案の比較表

➡ ○各対策案の内容・効果・影響の比較結果の提示

対策案の比較表

対策案の考え方	【案①】別線案	【案②】別線＋一部現道改良案	【案③】現道改良案
整備イメージ			
凡例	〃 : 現道 〃 : 案①整備箇所 〃 : 案②整備箇所 …… : 案③整備箇所 〃 : 別線区間		
区間延長	約28km (自動車専用道路)	約29km (自動車専用道路＋現道改良)	約28km (現道改良)
政策目標	災害時の信頼性の高いネットワークの構築 大規模災害時の避難や救援、地域の孤立 貨物車等の安全な走行環境や物流ルートの確保 冬期の走行環境 地域の医療不安を解消する高次医療施設へのアクセス向上	多重性を確保できる 避難・救援ルートが確保され孤立を回避できる 通過交通と生活交通を分離し大きく向上できる動物等との衝突事故も防止できる 既存林等の活用による地吹雪対策により最も向上できる 所要時間を最も短縮できる 安定走行により大きく負担を軽減できる	多重性を確保できない 避難・救援ルートが確保され孤立を回避できる 災害時の避難ルートはなく、広尾町が孤立する可能性がある 現道の交通安全対策により向上する 地吹雪対策が必要 所要時間を短縮できない 負担軽減は見込めない
配慮すべき事項	地域への影響: 優良農地の分断や家屋への影響 環境への影響: 土地の改変や自然環境への影響 市街地等へのアクセス: 主要市街地や十勝港へのアクセス性 工事中の影響: 影響は少ない 経済性: 区間延長が案②に比べ短く、山側を通過することで土工バランスが良く、経済性に優れる	山側を通過するため案②に比べ小さい 比較的大きくなる可能性がある 沿線集落へのアクセスは限定十勝港、日高方面へのアクセスが良い 影響は少ない 区間延長が案②に比べ短く、山側を通過することで土工バランスが良く、経済性に優れる	平地部を通過するため案①に比べ大きい 別線整備区間では大きくなる可能性があるが、現道改良区間では小さい 十勝港、沿線集落へのアクセスが良い 現道改良区間は影響が大きく通行規制が必要 影響は大きく通行規制が必要 現道の改良工事のため案①②に比べコストは大幅に縮減できる
	約350～380億円	約360～390億円	約90～110億円

8

■第2回アンケートにおける調査方法および質問内容

⑨質問事項

➡ **○対策案の比較選定時に重視する項目等に関する質問事項を提示**

大樹～広尾間の道路計画に関する地域意見聴取について

質問1. 対策案の比較にあたって、どのような項目を重視すべきだと思いますか？

以下に示す①～③の項目それぞれについて、「特に重視すべき」～「重視する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。	特に重視すべき	やや重視すべき	どちらとも言えない	あまり重視する必要はない	重視する必要はない
① 事故や冬期災害等緊急時の路線の多重性を有し、災害時の避難や被災時の救援により地域の孤立を回避できる道路					
② 物流貨物車交通と生活交通の機能の分担により交通事故が減少し、安全・確実な産業を支援できる道路			回答は返信はがきに記入願います		
③ 帯広市の医療施設などへの到達性や走行性の向上により、地域の医療不安を解消する道路					

質問2. また、どのようなことに配慮して計画すると良いと思いますか？

以下に示す①～⑤の項目それぞれについて、「特に配慮すべき」～「配慮する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。	特に配慮すべき	やや配慮すべき	どちらとも言えない	あまり配慮する必要はない	配慮する必要はない
① 農地の分断や家屋等への影響					
② 自然環境への影響					
③ 市街地等へのアクセス性			回答は返信はがきに記入願います		
④ 工事中の現道交通に対する影響					
⑤ 整備費用が安い					

質問3. その他に配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等があればご自由にお書きください。

回答は返信はがきに記入願います

⑩Webアンケート案内・記入例・問い合わせ先

➡ **○Webによる回答方法を提示**
○回答用はがきへの記入例を提示
○問い合わせ先を提示

第2回地域意見聴取の回答方法、実施期間

- 回答は同封しています回答用の郵便はがきにご記入ください。
- 回答用の郵便はがきは、切手を振らずにそのままお近くの郵便ポストへ投かんしてください。なお投かんは、平成27年●月●日(●)までにお願いします。
- インターネットによる回答も可能になっておりますので、必要な場合は下記アドレスからアクセス願います。

帯広・広尾自動車道 大樹～広尾間 道路計画に関する意見募集Web 回答用ページ
<http://www.ob.hkd.mlit.go.jp/hp/douro/en.html>

回答用はがきの記入例

郵便はがき

〒080-8585 帯広市西4条南8丁目 帯広開発建設部 道路計画課

帯広・広尾自動車道 大樹～広尾間 道路計画に関する意見聴取係 行

〒080-8585 帯広市西4条南8丁目 帯広開発建設部 道路計画課

性別 ①男性 ②女性

年齢 ①20代以下 ②30～40代 ③50～60代 ④70代以上

職業 ①会社員 ②公務員 ③農業 ④漁業 ⑤林業 ⑥観光業 ⑦学生 ⑧主婦 ⑨物流・輸送 ⑩商業 ⑪工業 ⑫無職 ⑬その他()

■自動車を利用する頻度を教えてください(あてはまるもの1つに○)

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④ほとんど運転しない ⑤運転しない

■大樹～広尾間の利用頻度を教えてください(あてはまるもの1つに○)

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④ほとんど利用しない ⑤利用したことがない

■大樹～広尾間の主な利用目的を教えてください(あてはまるものを全てに○)

①通勤・通学 ②通院 ③家事・買物 ④仕事(営業・運送等) ⑤娯楽・レジャー ⑥その他()

■商業施設への利用頻度を教えてください(あてはまるもの1つに○)

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④ほとんど利用しない ⑤利用したことがない

■前回のアンケートに回答しましたか(あてはまるもの1つに○)

①回答した ②回答していない

帯広・広尾自動車道(大樹～広尾間) 第2回意見聴取 回答欄

質問1. 対策案の比較にあたって、どのような項目を重視すべきだと思いますか？

以下に示す①～③の項目それぞれについて、「特に重視すべき」～「重視する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。	特に重視すべき	やや重視すべき	どちらとも言えない	あまり重視する必要はない	重視する必要はない
① 多重性、独立の回避	<input type="radio"/>				
② 事故軽減、産業支援		<input type="radio"/>			
③ 医療施設等への到達性	<input type="radio"/>				

質問2. また、どのようなことに配慮して計画すると良いと思いますか？

以下に示す①～⑤の項目それぞれについて、「特に配慮すべき」～「配慮する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。	特に配慮すべき	やや配慮すべき	どちらとも言えない	あまり配慮する必要はない	配慮する必要はない
① 農地分断の配慮	<input type="radio"/>				
② 自然環境への配慮	<input type="radio"/>				
③ 市街地へのアクセス		<input type="radio"/>			
④ 工事中の影響			<input type="radio"/>		
⑤ 整備費用が安い				<input type="radio"/>	

質問3. その他に配慮すべき項目や、今後の道路整備等についてのご意見等があればご自由に目録に書き込んでください。

本調査は、南十勝地域の道路整備について、地域にお住まいの皆さまや道路利用者のご意見を広くお聞きすることを目的とするものです。

そのため、回答用の郵便はがきに記入されたことは、この目的以外には使用いたしません。

回答いただいた個人に関する情報は、本人の同意なく第三者に開示・提供することはありません。(法令により開示を求められた場合を除きます)

地域意見聴取についてのお問い合わせ先

<調査主体>
 北海道開発局 帯広開発建設部 道路計画課
 帯広・広尾自動車道 大樹～広尾間 道路計画に関する意見聴取係

〒080-8585 帯広市西4条南8丁目
 電話 0155-24-4106

国土交通省

安全で快適な地域づくりのために
みなさまのご意見をお待ちしています。

